

令和3年度

福岡県教育施策実施計画

福岡県教育委員会



はじめに

県は平成 24 年 3 月、県民一人一人が福岡県に生まれ、生活してよかったと実感できる「県民幸福度日本一」に向けて、目指すべき姿とこれを実現するための施策の方向を示す「福岡県総合計画」（平成 24 年度～28 年度）を策定しました。そして、平成 29 年 3 月に、それまでの成果や社会経済の変化等を踏まえ、「県民幸福度日本一」への取組を更に加速させるため、新たな「福岡県総合計画」（平成 29 年度～令和 3 年度）を策定しました。

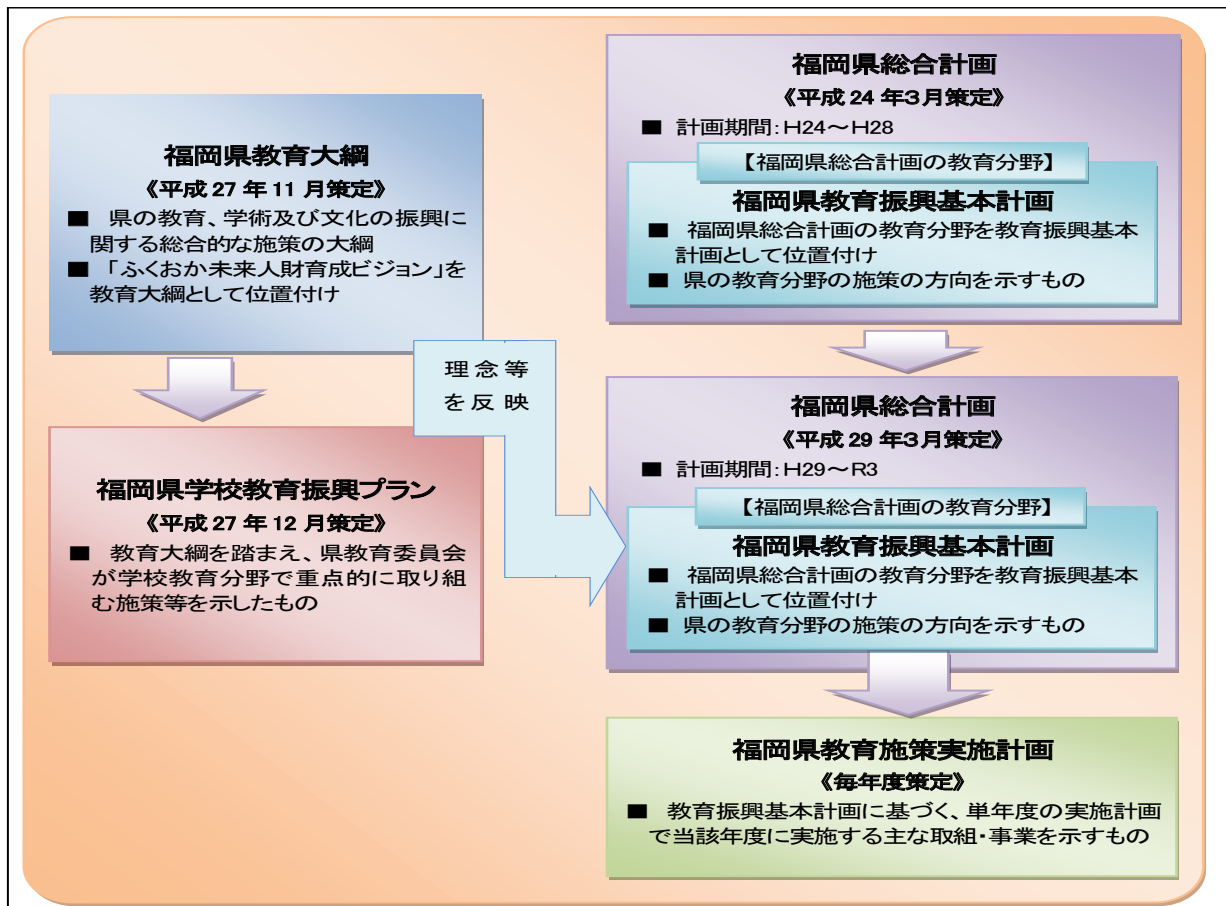
この総合計画における教育分野は、県が推し進める教育行政の指針となるものであることから、教育基本法第 17 条に定める本県の「教育振興基本計画」として位置付けることとしており、本県においては総合計画の策定をもって、本県の「教育振興基本計画」が策定されることとなります。

なお、現行の「教育振興基本計画」は、平成 27 年 11 月に知事が策定した「福岡県教育大綱」と、同年 12 月に県教育委員会が策定した、「福岡県学校教育振興プラン」の理念等を反映したものとなっています。

福岡県教育施策実施計画は、本県の「教育振興基本計画」のうち教育委員会所管分野に係る単年度の実施計画として策定するものです。昨今、情報化やグローバル化といった社会的変化が、予測を超えて加速度的に進展していることを踏まえ、子どもが社会の変化に主体的に向き合っ
て関わり合い、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通して必要な力を育てていくことが求められています。こうした状況を踏まえて、この実施計画を策定し、各教育施策を展開していきます。

そして、これら教育施策の執行状況については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に定めるとおり、翌年度に点検及び評価を行い、県民に対する説明責任を果たすとともに、今後の教育施策への適切な反映に努めます。

■ 福岡県教育施策実施計画の位置付け



教育の基本目標

教育基本法においては、教育の目的を、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者」としての国民の育成を期することとし、この目的を実現するために「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」など、5つの目標を掲げています。

また、本県の教育大綱では、「国際的な視野を持って、地域で活躍をする若者」（ふくおか未来人材）の育成を目指し、その育成のために必要な新たな視点として、「学力、体力、豊かな心」、「社会にはばたく力」及び「郷土と日本、そして世界を知る力」の3つの力を柱とする施策の方向が示されています。

さらに、県教育委員会では、本県の教育大綱を踏まえ、福岡県学校教育振興プランにおいて、学校教育の目標を「社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する力を育成すること」と掲げています。

県教育委員会では、この教育基本法における教育の目標を基本に据えつつ、福岡県教育大綱及び福岡県学校教育振興プランを踏まえ、本県における「教育の基本目標」を、次のように定めています。

【教育の基本目標】

- 真理を求め、意欲的に学ぶ態度をもち、社会的自立の基盤となる確かな学力、たくましく生きるための健康や体力、豊かな情操と道徳心を備えた県民を育成すること。
- 志と自律心をもち、創造性や個性に富み、生涯にわたって学ぶ県民を育成すること。
- 正義を愛し、他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく強い自覚と実践力をもち、人権を尊重する県民を育成すること。
- 命あるものを尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する県民を育成すること。
- 自ら考え、多様な価値観の人々と協働し、課題を解決していく力を身に付けるとともに、社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する県民を育成すること。
- 文化と伝統を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、人類の平和と発展に貢献できる国際性豊かな県民を育成すること。

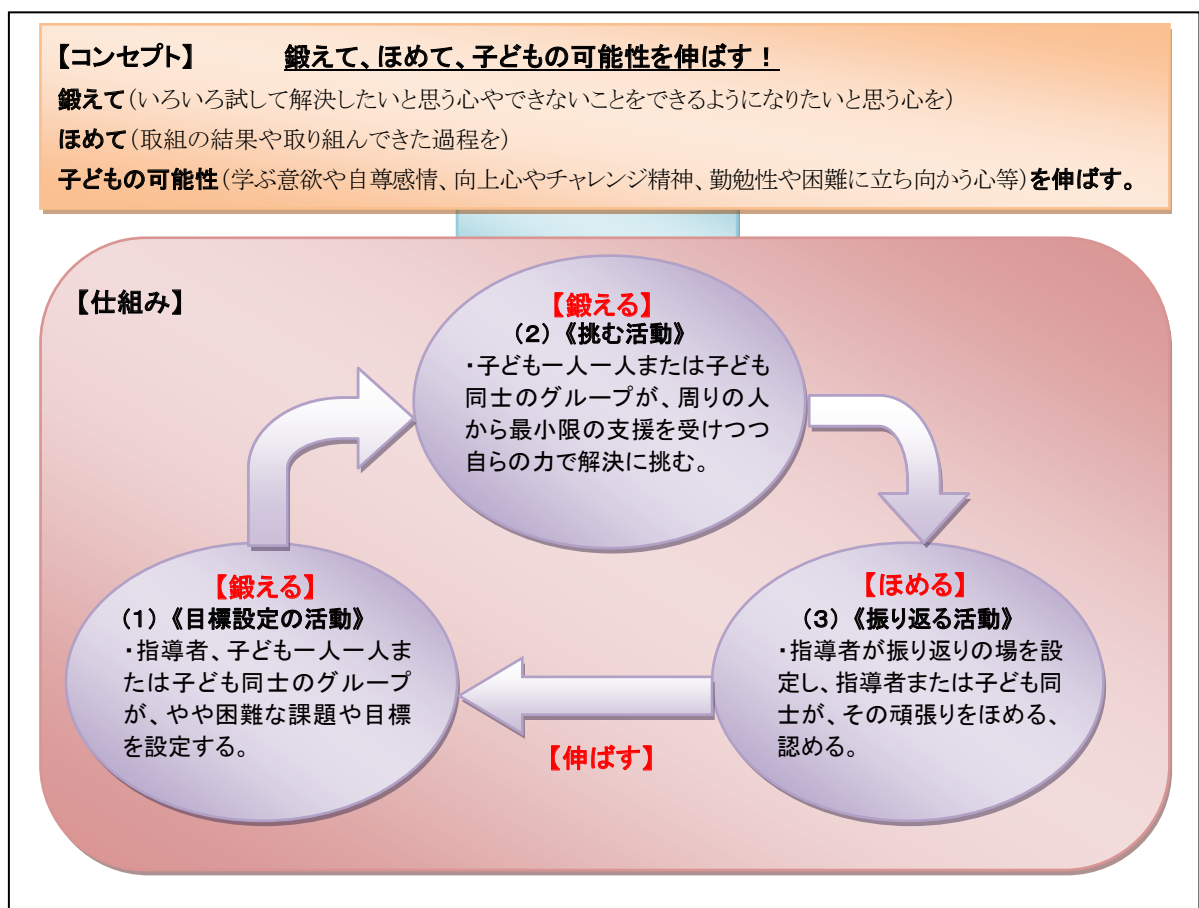
～ 福岡県独自の指導方法『^{きた}鍛ほめ福岡メソッド』の展開 ～

教育は、子どもに関わる大人たちが共通の認識に立ち、同じ方向を向いて働きかけるからこそ、その効果が高まるものであり、このような視点からの取組が必要です。

このため、県教育委員会は、学校、家庭、地域が様々な教育課題を共有し、同じ方向を向いて協力し合いながら、学ぶ意欲や自尊感情、チャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成するため、「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」をコンセプトとした福岡県独自の指導方法『鍛ほめ福岡メソッド』を全県的に広く展開しているところです。

この『鍛ほめ福岡メソッド』を、本県の教育に関わる全ての方が共有・実践し、実効性のある取組・事業を展開していきます。

■ 「鍛ほめ福岡メソッド」



福岡県の教育施策の体系

令和3年度の教育施策は、下の表のとおり7つの柱、13の項目、28の施策に整理、体系化しています。

柱	項目	施策	施策番号	頁
I 「学力、体力、豊かな心」を育成する	1 学力の向上	(1) 確かな学力向上のための取組の推進	施策1	… P6
		(1) 体力向上のための取組の推進	施策2	… P8
	2 体力の向上	(2) 体育・スポーツ活動を豊かにする体制づくり	施策3	… P9
		(3) 健康教育の充実	施策4	… P10
		3 豊かな心の醸成	(1) 道徳性を養う心の教育の充実	施策5
	(2) 実体験を重視した教育の推進		施策6	… P12
	(3) いじめや不登校等への対応		施策7	… P13
	(4) 少年の非行防止と健全育成		施策8	… P15
	(5) 幼児教育の充実		施策9	… P16
	(6) 読書活動の充実		施策10	… P17
	4 学校、家庭、地域の連携・協働	(1) 学校、家庭、地域の連携・協働体制の整備	施策11	… P18
		(2) 家庭教育支援の充実	施策12	… P20
	5 教育環境づくり	(1) 多様な教育ニーズへの対応	施策13	… P21
		(2) ICTを活用した教育活動の推進	施策14	… P22
		(3) 児童生徒の安全確保	施策15	… P24
		(4) 学校施設の整備・充実	施策16	… P25
		(5) 教育機会の確保	施策17	… P26
		(6) 教員の指導力・学校の組織力の向上	施策18	… P27
II 「社会にはばたく力」を育成する	1 多様で特色のある能力や個性の伸長	(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実	施策19	… P29
		(2) 特別支援教育の推進	施策20	… P31
	2 キャリア教育の充実	(1) キャリア教育・職業教育の推進	施策21	… P33
III 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する	1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解	(1) 国際的視野を持つ人材の育成	施策22	… P35
IV 生涯学習社会をつくる	1 生涯学習・社会教育の総合的推進	(1) 社会教育活動の推進	施策23	… P37
	2 生涯学習・社会教育環境の整備	(1) 社会教育施設の充実	施策24	… P38
V 県民の文化活動を盛んにする	1 文化の振興	(1) 県民文化芸術活動の振興	施策25	… P39
		(2) 文化財の保存・活用及び継承	施策26	… P40
VI 県民のスポーツ活動を盛んにする	1 大規模国際スポーツ大会等を契機としたスポーツの振興による地域活性化	(1) 県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進	施策27	… P41
VII 人権が尊重される心豊かな社会をつくる	1 人権尊重の意識や行動の定着及び人権施策の推進	(1) 人権教育・人権啓発の推進	施策28	… P42

令和3年度福岡県の教育施策

次ページから、令和3年度福岡県の教育施策について、下に示す構成で詳細に説明します。

柱 項目

施 策

《施策番号》

担当課

総合計画の内容

当該施策に係る総合計画の「現状・課題」及び「施策の方向」の該当箇所を記載し、当該施策を実施する背景を説明しています。

令和3年度 施策の基本的なねらい

上記「総合計画の内容」に記載の「施策の方向」、教育大綱に記載の「施策の方向」及び福岡県学校教育振興プランに記載の「重点的に取り組む施策」の内容等を踏まえ、令和3年度における施策の基本的なねらいを記載しています。

令和3年度 主な取組・事業

上記「令和3年度 施策の基本的なねらい」に関して、令和3年度に実施する取組・事業のうち、主なものについて記載しています。

指 標

当該施策の効果を把握するため、指標及び目標値を設定しています。

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

1 学力の向上

(1) 確かな学力向上のための取組の推進 <<施策1>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、社会教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 文部科学省「全国学力・学習状況調査」（平成28年度）では、小学校の一部の教科区分において平均正答率が全国平均を上回るなど改善傾向にあるものの、中学校においては平均正答率が全国平均を下回る状況が続いています。

<施策の方向>

- 各学校において、学力向上に係る組織的な検証改善サイクルの確立を図ります。特に、中学校における授業力の向上、意識改革、環境改善の取組みを強化します。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、小学校での基礎学力を定着させる取組み、小中学校での補充学習などを推進します。
- 学習習慣の定着や学ぶ意欲の喚起を図るため、放課後等の学習活動に取り組む市町村を支援します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 福岡県学力向上推進計画等の下、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の確かな学力の育成を目指します。
- ◇ 県内全小・中学校における学力実態、学習状況及び市町村の学力向上の取組状況を調査するとともに、各学校において、学力層に着目した学力向上に係る効果的な検証改善サイクルの確立を推進します。特に、中学校の学力向上を目的としたカリキュラム・組織マネジメントの質的向上を図ります。
- ◇ 高等学校においては、学習内容の確実な定着を図るとともに、コミュニケーション能力や課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた取組の更なる充実を図ります。
- ◇ 教員研修の実施により授業の工夫改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。
- ◇ 地域と学校の連携・協働の下、地域全体で子どもの成長を支える「地域学校協働活動」を進め、放課後の学習支援等を実施することで、学力の向上を目指します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
福岡県学力向上推進計画に基づく 学力向上総合推進事業の実施 ＜重点事業1＞	県、市町村、学校が一体となり、児童生徒の学力向上、教員研修及び家庭学習充実の取組を総合的に展開することによって、確かな学力を育みます。また、県独自の学力調査（小5、中1・2）を実施するとともに、活用力育成教材集の作成や診断テスト（小4）を実施します。 中学校においては学力向上推進拠点校を指定し、授業・組織運営・人材育成の一体的改善を図ります。
主体的・対話的で深い学び 推進事業の実施	生徒のコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力などを育成するため、言語活動の充実を図るとともに、子どもが、伝統と文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間となるよう、課題の発見と解決に向けて、「福岡県立学校『新たな学びプロジェクト』」によってアクティブ・ラーニングの視点による主体的・対話的で深い学び実現のための授業改善を推進します。
地域学校協働活動事業における 放課後の学習支援等の実施	市町村における地域学校協働活動の取組を推進し、地域学校協働活動推進員が学校との連絡・調整及び各活動の企画・推進等を総合的に行うことで学校支援、放課後の学習支援等を円滑に実施できるよう支援します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査における標準化得点※の教科ごとの平均値 〔小：国語、算数〕 〔中：国語、数学〕 ※標準化得点＝（本県の正答数）／（全国の正答数）×100	小 国語 103.4 算数 100.0 中 国語 98.6 数学 99.0 （R1年度）	小 国語 100以上 算数 100以上 中 国語 98.9以上 数学 98.6以上 （R3年度） ※中：就学援助率が全国平均より高い県の教科ごとの平均（H28年度）以上
課題の解決に向けた取組	授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合	小 75.7%（全国 77.7%） 中 73.7%（全国 74.8%） （R1年度）	全国平均以上 （R3年度）
家庭での学習習慣の定着	学校の授業時間以外に、平日の勉強時間が1時間未満の児童生徒の割合	小 35.2%（全国 34.0%） 中 34.7%（全国 30.0%） （R1年度）	全国平均以下 （R3年度）
学力向上に関する検証改善サイクルの確立	教育課程の改善を図るための一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合	小 36.3%（全国 37.3%） 中 33.5%（全国 33.9%） （R1年度）	全国平均以上 （R3年度）

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する
2 体力の向上

(1) 体力向上のための取組の推進 << 施策 2 >>

体育スポーツ健康課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(平成 28 年度)では、本県の小・中学校の男女ともに体力は改善傾向が見られるものの、小学校女子及び中学校女子の体力合計点が全国平均値を下回っています。

< 施策の方向 >

- 子どもが運動やスポーツをする機会を充実させ、体を動かす習慣づくりに取り組みます。
- 先進的なスポーツ医・科学の知見を取り入れた授業、オリンピック・パラリンピック等を契機とした運動・スポーツへの関心を高める取組を推進します。

令和 3 年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 学校における体育・スポーツ活動の充実やオリンピック・パラリンピック教育の推進、オリンピック・パラリンピアン等の活用等により、子どもの運動への動機付けや習慣化の促進を図り、子どもたちの体力を更に向上させます。

令和 3 年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
福岡県体力向上総合推進事業の実施 < 重点事業 2 >	各学校で計画的かつ継続的に「1 校 1 取組」運動に取り組むとともに、運動の楽しさや喜びを味わう授業づくりなど体育・保健体育の授業の充実・改善を図ります。 また、オリンピック・パラリンピック教育を推進するとともに、県立学校にオリンピック・パラリンピアンを派遣し、様々な競技の体験教室などを実施します。
教員の指導力向上のための各種研修の充実	教員の指導力向上を図るため、初任者・保健体育科教員及び管理職を対象とした体力向上に関する研修会を実施します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
子どもの体力の向上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点平均値	小 男子 54.41 点 (全国 53.61 点) 女子 55.96 点 (全国 55.59 点) 中 男子 43.20 点 (全国 41.69 点) 女子 50.52 点 (全国 50.22 点) (R1 年度)	全区分 全国平均以上 (毎年度)

- I 「学力、体力、豊かな心」を育成する
- 2 体力の向上

(2) 体育・スポーツ活動を豊かにする体制づくり << 施策 3 >>

体育スポーツ健康課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 本県は、中学校における運動部活動の加入率が全国平均に比べ低いこと、体育の授業以外で全く運動をしない子どもの割合が高いことなど、運動・スポーツをする習慣の定着に課題があります。

<施策の方向>

- 運動部活動における適正な運営、外部指導者の活用により、その活性化や加入促進などに取り組み、生涯にわたってスポーツをする習慣の基礎づくりを推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 平成30年12月に策定した「福岡県運動部活動の在り方に関する指針」に則った運動部活動の適正な運営や部活動指導員等を活用した指導体制づくりの推進により、それぞれの種目特有の楽しさを味わうことのできる魅力ある運動部活動を構築し、子どもの運動習慣の定着を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
福岡県体力向上総合推進事業 における運動部活動の充実 <重点事業2>	より専門的な技術指導を行う体制の整備を図るとともに教職員の負担を軽減するために、中・高等学校及び特別支援学校に部活動指導員を配置し、併せて顧問や部活動指導員の指導力向上を図るための研修会を実施します。 また、指定したモデル市町村において、休日の部活動の段階的な地域移行等に向けた実践研究を行います。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
子どもの運動習慣の定着	学校の体育の授業以外で、週3日以上運動やスポーツをする児童生徒の割合	48.4% (R2 年度)	65% (R5 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

2 体力の向上

(3) 健康教育の充実 << 施策 4 >>

高校教育課、体育スポーツ健康課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- メンタルヘルスに関する問題や性の問題行動など児童生徒の健康課題が多様化・深刻化する傾向にあります。
- 文部科学省「全国学力・学習状況調査」によると、朝食を毎日食べる子どもの割合が全国平均を下回っており、体力との相関関係が指摘されている望ましい食習慣の定着に課題があります。

< 施策の方向 >

- 性や心に関する悩みや不安を抱える生徒に対して専門医（産婦人科医・精神科医）による性と心の健康相談を実施するとともに、教員や保護者に対しても指導助言を行います。
- 生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、睡眠や食生活等の望ましい生活習慣を定着させる健康教育を推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 性や心の健康に関する正しい知識の普及・啓発及び生徒の不安や悩みの解決を図るために、学校、家庭、産婦人科医・精神科医との連携を推進します。
- ◇ 児童生徒に、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせるために、食に関する指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携・協働した取組を推進します。
- ◇ 「福岡県ワンヘルス推進基本条例」に基づき、生涯にわたる自らの健康や環境を適切に管理・改善していくための資質・能力を身に付けさせるため、ワンヘルスの理念に基づく取組を推進します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
健康教育推進事業 (性と心の健康相談)の実施	県立高等学校等に産婦人科医及び精神科医を派遣し、生徒、教職員、保護者を対象とした講演や健康相談を実施することにより、性や心の健康問題の早期発見・早期解決に取り組めます。
食に関する指導についての 研修の充実	管理職、栄養教諭などを対象とした各種研修及び栄養教諭などの資質向上のための基本研修を実施します。
子どもが作る「ふくおか弁当の日」 の推進	子どもが弁当を作ることを通して、食べ物やそれらを作ってくれる人への感謝の心を養い、自己肯定感を育むなど高い教育的効果が期待できる「ふくおか弁当の日」の普及・拡大に取り組めます。
衛生管理及び安全な食材確保の ための体制整備	衛生管理の徹底を図るため、学校給食施設へ指導者を派遣し、状況調査や改善指導を行うとともに、学校給食用食材の安全確保のために定期検査を実施します。
ワンヘルス教育推進事業の実施 < 重点事業 3 >	ワンヘルスに関する理念の普及に向け、啓発のための資料を配布するとともに、研究協力校による実践研究を実施します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
食に関する指導	朝食を食べる習慣が定着している児童の割合	93.3% (全国 95.3%) (R1 年度)	全国平均以上 (R3 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

3 豊かな心の醸成

(1) 道徳性を養う心の教育の充実 << 施策 5 >>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 「県民意識調査」によると、「郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実」を望む県民が増えています。国際社会で活躍する日本人を育成するためには、伝統、文化を大切にし、それらを育んできた我が国や郷土を愛する心を育てることが必要です。

< 施策の方向 >

- 「特別の教科 道徳」の実施に向けて、体験活動、問題解決型学習などを取り入れ、子ども自ら考え、議論する授業への改善・充実を図ります。
- 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛するとともに、異文化を理解し、異なる価値観を受容して国際社会の平和と発展に貢献しようとする子どもを育てるため、先人の偉業、文化財等を題材とした指導の充実を図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 「特別の教科 道徳」の充実に向けて、体験活動や問題解決的な学習等を取り入れ、それらの活動等で学んだ内容の意義や人間としての生き方等について考え、議論するような授業の実現に努めます。
- ◇ 他人を思いやる心や、公共のためになることを大切にする心を身に付けることができるよう、教育活動全体を通じて、道徳性を養う心の教育の充実を図ります。
- ◇ 我が国と郷土を愛する心や国際社会に貢献する心などを身に付けることができるよう、「特別の教科 道徳」や各教科などの指導を推進します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
ボランティア活動等の社会奉仕 体験活動の推進	自らを豊かにし、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる勤労生産やボランティア精神を養う体験活動を推進します。
規範的な行動を促す道徳、 特別活動、総合的な学習（探究） の時間等の教育活動の充実	小・中学校においては、道徳教育推進の核となる指導者を養成するとともに、「道徳教育実践ハンドブック vol. 2」等の活用を促進します。 県立高等学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を整備し、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、生徒の心に響く道徳教育の充実を図ります。
情報モラル・情報リテラシー教育 の充実	教員研修や「児童生徒と保護者の学習会」などにより、情報モラルや情報リテラシーの啓発を行います。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
道徳教育の推進	各地域の道徳教育の中核となる小・中学校教員の養成研修修了者数の累計	384人 (R2年度)	400人 (R3年度)
	研修会の講師等として自校以外で活動した道徳教育地域指導者の割合	82.3% (R2年度)	85% (毎年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

3 豊かな心の醸成

(2) 実体験を重視した教育の推進 << 施策 6 >>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、

社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 子どもの生活において、異年齢の仲間や地域の大人との交流、生活体験・社会体験・自然体験などの減少が指摘されています。

< 施策の方向 >

- 「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす！」をコンセプトとした指導方法「鍛ほめ福岡メソッド」を積極的に取り入れた体験活動等を通して、将来に対する目的意識や社会性、命を大切に^{きた}する心などを培います。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 子どもの生活習慣の定着、協調性・主体性などを育むため、地域人材を活用しながら「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた体験活動の充実を図ります。
- ◇ 各社会教育施設の特徴に応じたプログラムを開発し、体験活動の充実を図ります。
- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策をしながら体験活動の機会を確保するため、学校等における体験活動の取組に対する支援を行います。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
「鍛ほめ通学合宿」の在り方に関する調査研究事業の実施	「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた通学合宿を実施し、より効果的な体験活動の充実を図ります。
県立学校集団体験活動推進事業の実施	自立や協働の精神を学びながら、社会性や他人を思いやる心、集団内の好ましい人間関係づくりと自尊感情や規範意識を育成するため、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた集団体験活動や自然体験活動を実施します。
放課後等における子どもの体験活動などの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動指導員を設置する市町村を支援し、子どもの体験活動などを推進します。 ・子どもの主体性や協調性を育むため、地域学校協働活動事業等において放課後等における子どもの体験活動を実施します。 ・「ふくおか体験活動出前隊（青少年教育施設職員）」が、学校や地域に出向き、子どもの体験活動を支援します。
障がいのある子どもや不登校の子どもへの体験活動の支援	県立の社会教育施設において、障がいのある子どもや不登校の子どもを対象とした体験活動事業を実施し、将来に対する目的意識や社会性を育みます。

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
放課後等における体験活動の実施	放課後等に子どもの体験活動を実施している市町村の割合	86.7% (R1年度)	100% (毎年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

3 豊かな心の醸成

(3) いじめや不登校等への対応 << 施策 7 >>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 平成 27 年度の本県におけるいじめの認知件数は、小学校 1,783 件、中学校 970 件、高等学校 198 件となっています。また、不登校児童生徒数については、小学校 1,097 件、中学校 4,213 件、高等学校 1,984 件となっており、小・中学校については増加傾向にあります。

参考：令和元年度

いじめの認知件数	小学校	… 8,820 件
	中学校	… 2,921 件
	高等学校	… 374 件
小・中学校の不登校児童生徒数		… 8,771 人
高等学校の不登校生徒数		… 2,493 人
高等学校の中途退学生徒数		… 1,734 人

< 施策の方向 >

- 「いじめ防止対策推進法」、「福岡県いじめ防止基本方針」及び「福岡県いじめ問題総合対策（改訂版）」に基づき、いじめの防止、正確な認知等の取組みを更に推進します。
- 暴力行為、いじめ、不登校、中途退学等の生徒指導上の諸問題の未然防止・早期発見・早期対応に向け、一人ひとりに応じたきめ細かな指導や相談等が実施できるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や地域との連携・協力により、学校が組織的に対応する取組みを推進します。また、学校と福祉、警察等関係機関との日常的な連携を図ります。
- 小・中学校の不登校児童・生徒が利用する教育支援センター等の指導体制整備、学習・社会体験等に対する支援を行います。

令和 3 年度 施策の基本的なねらい

- ◇ いじめ防止対策推進法、福岡県いじめ防止基本方針、福岡県いじめ問題総合対策（改訂版）及び福岡県立学校いじめ防止対策推進委員会の調査等に基づき、いじめ防止等の取組を更に推進します。
- ◇ いじめや不登校等を未然に防止し、早期に発見・対応するための取組の強化を図るとともに、外部の専門家や関係機関と連携し、学校が組織的に対応する取組を推進します。
- ◇ 小中高校生のコミュニケーション手段として SNS が普及していることを踏まえ、対面や電話での相談に抵抗感がある児童生徒に対して、相談方法の選択肢を増やし教育相談体制の強化を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
いじめ・不登校総合対策事業の実施 ＜重点事業4＞	<p>楽しく学べる学校づくりを推進するため、教育相談体制の整備・充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校の予防・解消や児童生徒を取り巻く生活環境の改善を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの活用や関係機関との連携により学校の組織力を高めます。特にスクールカウンセラーについては、すべての小・中学校及び県立学校に配置します。 ・不登校については、教育支援センター等への助言体制の充実を図り、不登校児童生徒を支援するネットワークの構築を進めます。 ・従来から実施している電話やメールによる相談に加え、SNSを活用した即時に対応する双方向システムによる相談を実施することにより、児童生徒の相談に係る多様な選択肢を用意し、いじめを含めた様々な悩みに対する助言を行います。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
不登校対策	児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数	小 9.7人 (全国 8.3人) 中 46.3人 (全国 39.4人) 高 20.7人 (全国 15.8人) (R1年度)	全国平均以下 (毎年度)
	不登校から継続して登校できるようになった児童生徒の割合	小 29.7% (全国 22.8%) 中 27.5% (全国 22.8%) 高 53.5% (全国 37.5%) (R1年度)	小・中学校 全国平均以上 (毎年度) 高等学校 50% (毎年度)
いじめの解消率	いじめの認知件数のうち解消した件数の割合	小 87.5% (全国 83.5%) 中 83.8% (全国 81.6%) 高 79.8% (全国 84.0%) (R1年度)	全国平均以上 (毎年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する
3 豊かな心の醸成

(4) 少年の非行防止と健全育成 < 施策 8 >

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、
体育スポーツ健康課、社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 平成 28 年の本県における刑法犯少年の検挙補導人員は 2,056 人、再犯者数は 870 人となっています。それぞれ平成 22 年の 6,203 人、1,848 人から大幅に減少したものの、全国的にみると依然として高い水準にあります。近年の少年非行には、少年自身の規範意識の低下、コミュニケーション能力の不足、家庭や地域社会の教育機能の低下など様々な背景があり、その解決には、関係機関、ボランティア団体等と連携し、社会全体で取り組むことが必要になっています。

参考：令和 2 年の本県における刑法犯少年の検挙補導人員 … 1,159 人（全国 7 位）
再犯者数 … 336 人（全国 7 位）

- スマートフォン等の携帯端末の普及に伴い、SNS 等が介在したいじめ、性的犯罪等の被害、長時間利用による生活リズムの乱れなどの問題が起きています。インターネットの適正利用に向けて、青少年や保護者に対する啓発などの取組みが必要になっています。

< 施策の方向 >

- 学校と家庭・地域が連携した児童生徒の規範意識育成の取組みの充実を図ります。
- SNS 等を介したいじめ等のトラブルから青少年を守るため、教育機関、通信事業者、NPO、行政などの官民が連携し、青少年が主体的にルール・マナーを学ぶ取組み、情報モラル等を身に付けさせる指導の充実、家庭での携帯電話・スマートフォンのルールづくりなどを推進します。

令和 3 年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 児童生徒の非行行為の未然防止や健全育成及びインターネット等の適正な利用を推進するために、学校と警察が情報共有や啓発活動を行うとともに、学校と家庭が連携し、家庭におけるルールづくりなど児童生徒の規範意識を育成する取組の充実を図ります。
- ◇ 児童生徒の薬物乱用防止及び飲酒運転の撲滅に向けた規範意識を育成するために、体育科・保健体育科及び特別活動等を関連づけ、学校教育全体を通じた指導の充実を図るとともに、家庭・地域・関係機関と連携した取組を推進します。

令和 3 年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業の実施 < 重点事業 5 >	児童生徒の社会規範等に対する理解の深化や非行行為に走らない判断力や実践力、保護者の規範意識や養育に関する責任感を高めるため、「規範意識育成学習会」及び「児童生徒と保護者が共に学ぶ学習会」を実施します。
薬物乱用防止教育の充実	教員の薬物乱用防止教育に係る指導力の向上を図るため、指導者研修会を実施するとともに、児童生徒の薬物乱用を防止するため各学校における薬物乱用防止教室の開催及び内容の充実を推進します。
飲酒運転防止教育の充実	飲酒運転防止教育に係る教員の指導力の向上を図るため、指導者研修会を実施します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
家庭・地域と連携した規範意識育成	「児童生徒と保護者が共に学ぶ学習会」に参加した保護者の割合	小 43.6% 中 9.8% (R1 年度)	小 45% 中 10% (R3 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

3 豊かな心の醸成

(5) 幼児教育の充実 << 施策 9 >>

義務教育課、特別支援教育課、社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を築く重要なものであることから、教育施設、家庭、地域において、全ての子どもに質の高い幼児教育を提供できる環境を充実させる必要があります。

< 施策の方向 >

- 小学校教育との円滑な接続を見据え、関係団体との連携を強化することにより、幼稚園、保育所、認定こども園での幼児教育の質の向上を図ります。
- 家庭・地域社会と連携し、幼児教育の振興、子育てに関する学習機会の充実を図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、学校、家庭、地域社会と連携を図りながら、幼児教育の振興や子育てに関する学習機会の充実を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
子育てに関する学習機会や情報提供の推進	子育てに不安を抱える保護者を対象に、電話相談「親・おや電話」を継続して設置します。また、子育てに関する様々な情報を提供するホームページ「ふくおか子育てパーク」を運営するとともに、「みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム」を開催します。
地域の実態を踏まえた幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携強化	幼児教育と小学校教育の連続性を確保し、円滑な接続を図るため、望ましい連携の在り方や幼稚園の役割などについて情報提供を行うとともに、幼稚園等と小学校の合同研修の実施促進などの啓発を行います。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
小学校と幼稚園等の連携	幼稚園・保育所・認定こども園と合同で研修会を実施した小学校の割合	73.8 % (R1 年度)	80 % (R3 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

3 豊かな心の醸成

(6) 読書活動の充実 <<施策10>>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、社会教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 読書活動は、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、より一層の推進が必要です。

<施策の方向>

- 「福岡県子ども読書推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関する理解を促し、読書活動への関心を高めます。
- P T A研修会を通じた保護者への読書活動に対する理解促進やボランティア団体との連携促進等により家庭・地域・学校・民間における子どもの読書活動を推進します。
- 公立図書館及び学校図書館等との連携・協力・ネットワーク化に取り組みます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 「福岡県子ども読書推進計画」に基づき、自主的な読書活動ができるよう環境整備を推進し、読書習慣の形成・定着を図ります。
- ◇ 公立図書館及び学校図書館等のネットワーク化や公立図書館による学校支援を推進し、子どもの読書活動の充実を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
学校図書館の利活用による学校全体での日常的な読書活動の推進及び読書指導の充実	学校図書館の機能の計画的な利活用を促すとともに、学校全体での「全校一斉読書」や「読書の時間（10分間読書等）」などを通して、日常的・継続的な読書活動を推進します。また、学校図書館教育推進リーダー研修会等を通じて、司書教諭等による学校図書館の利用指導・読書指導等の充実を図ります。
市町村子ども読書推進計画の改訂に向けた支援	市町村における子ども読書推進計画の改訂に向けて、指導・助言や情報提供を積極的に行います。
読書活動推進ボランティアの養成及び活用促進	読書活動推進のために指導者やボランティア養成を目的とした講座などを実施するとともに、読書に関する事業やイベントでの活用促進を図ります。
図書館間の連携・協力・ネットワーク化の推進	「福岡県図書館情報ネットワーク」による県内図書館間の図書資料相互貸借及び横断検索システムの拡充に努めます。
子どもの読書習慣形成・定着支援事業の実施 <重点事業6>	市町村に読書ボランティアや公共図書館職員等から構成される読書活動応援隊を設置し、子どもの発達段階に応じた読書習慣形成・定着の取組と保護者及び地域住民を対象とした読書啓発の取組を体系的・継続的に実施します。

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

4 学校、家庭、地域の連携・協働

(1) 学校、家庭、地域の連携・協働体制の整備 <施策11> 総務企画課、高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、体育スポーツ健康課、社会教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 近年、家族形態の変容、地域における人間関係の希薄化が進む中で、これまで家庭や地域が担ってきた子どものしつけ、基本的な生活習慣、コミュニケーション能力、社会性等の習得などの教育機能が低下してきています。一方で、学校をめぐる課題が複雑化・多様化し、学校、教員だけでは解決できない課題も増えています。学校、家庭、地域が連携して子どもの育成に取り組む必要があります。

<施策の方向>

- コミュニティ・スクールや地域学校協働本部など学校・家庭・地域の連携を強化するシステムの導入を促進します。
- 地域の行事や人材（ボランティア）など多様な地域資源を活用し、地域の協力を得ながら、子どもの放課後等の活動の充実を図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」を推進するために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や地域学校協働本部の導入・実践に取り組む市町村を支援します。
- ◇ 学校と地域が連携・協働した地域学校協働活動の取組を推進し、地域人材の協力を得て、放課後等の活動の充実を図ります。
- ◇ 学校、家庭、地域が連携・協働し、それぞれが役割と責任を負い地域全体で子どもを育てる体制の整備を図ります。
- ◇ 県民一人一人が教育の重要性を考え、子どもを育む当事者としての意識を高めるため、「ふくおか教育月間」関連事業を実施し、県内全域で機運の醸成を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
地域と一体となった学校づくりの推進 ・コミュニティ・スクール導入促進事業 ・地域学校協働活動事業 ・ふくおか教育月間推進事業 <重点事業7>	学校と地域がめざす子どもの姿や学校の教育目標等を共有できる制度であるコミュニティ・スクールと、地域が学校のパートナーとして地域人材を生かした多様な活動を行う地域学校協働活動事業を一体的に推進します。 ・コミュニティ・スクールの導入を促進するため、市町村に対しコミュニティ・スクールの導入準備の支援を行うコミュニティ・スクール（CS）ディレクターの配置を支援します。 ・地域学校協働活動推進員の配置を促進し、地域学校協働活動本部を中心とした多様な活動を実施する市町村に対して支援します。 ・県民の本県教育への関心・理解を深めるため、11月の「ふくおか教育月間」に啓発イベントを開催します。また、市町村教育委員会等の関係団体と連携し県内全域での機運の醸成に努めます。
優れた知識・技能を有する社会人の積極的な活用促進	総合的な学習（探究）の時間、特別活動などにおける社会人の積極的な活用を促進します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
学校、家庭、地域の連携・協働体制の整備	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している学校の割合	小 61.7% (全国 64.6%) 中 36.7% (全国 38.2%) (R1 年度)	全国平均以上 (R3 年度)
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に取り組んでいる小中学校の割合	20.8% (R1 年度)	100% (R4 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

4 学校、家庭、地域の連携・協働

(2) 家庭教育支援の充実 << 施策 1 2 >>

社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 近年、家族形態の変容、地域における人間関係の希薄化が進む中で、これまで家庭や地域が担ってきた子どものしつけ、基本的な生活習慣、コミュニケーション能力、社会性等の習得などの教育機能が低下してきています。一方で、学校をめぐる課題が複雑化・多様化し、学校、教員だけでは解決できない課題も増えています。学校、家庭、地域が連携して子どもの育成に取り組む必要があります。

< 施策の方向 >

- 学校とPTA・家庭の連携・協働の強化を図るとともに、家庭教育の重要性を啓発し、また、家庭教育支援に関わる人材育成などの取組みを推進することにより、子どもの基本的な生活習慣の確立を図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもを育成する体制の整備を図ります。
- ◇ 家庭の教育力の向上に向けた取組を充実させるため、PTAとより一層の連携強化を図ります。
- ◇ 学校、家庭、地域と連携・協働した家庭での生活習慣づくりを推進するため、家庭教育支援に関わる人材育成などの取組の充実を図ります。
- ◇ 市町村に対して、家庭教育支援に関する情報や研修の機会を提供することで保護者が安心して子育てや家庭教育を行う地域づくりを支援します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
PTAが主体となって取り組む「新」家庭教育宣言への支援	県PTA連合会が実施する「新」家庭教育宣言事業を支援し、親子で取り組む家庭内での生活習慣づくりやメディアに関するルールづくり等を通じて家庭の教育力向上を目指します。
ふくおか社会教育応援隊事業の実施 < 重点事業 8 >	「ふくおか社会教育応援隊（県社会教育主事等）」が、家庭教育や子どもの読書活動などの課題に対応する講義・演習等を行い、市町村が実施する事業への運営支援や団体、サークル等の育成支援を行います。

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(1) 多様な教育ニーズへの対応 ≪施策13≫

高校教育課、義務教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 社会経済のグローバル化・情報化の進展、児童生徒・学生の興味・関心や進路希望等の多様化などに伴い、様々な教育ニーズへの対応が求められています。

<施策の方向>

- 小中・中高の一貫教育、高等学校における単位制の教育、学科・コースの充実など多様な教育ニーズに応じた教育システムづくりを推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 生徒の多様な興味・関心、能力・適性、進路希望などに応じた教育を展開するための積極的な改革を推進するとともに、入学者選抜制度の改善・充実を図ります。
- ◇ 県立高等学校等が各地域における人材育成の核として役割を果たし続けることができるよう、地域や時代のニーズに対応した学科・コースの構成等について研究します。
- ◇ 日本語指導が必要な児童生徒の増加に対応するため、日本語指導について専門性の高い教員を育成するとともに、市町村教育委員会や学校の受入体制の整備を支援します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
プロジェクトチームの設置	県立高等学校の活性化を総合的かつ戦略的に推進するプロジェクトチームにおける検討を継続します。
専門学科及び特色ある学科・コースの充実	県立高等学校に対する調査やヒアリング等により、専門学科及び特色ある学科・コースの現状と課題を把握し、地域や学校・生徒の実態等に応じて、学科・コースの充実を図ります。
入学者選抜制度及び転編入学制度の改善	受検生の多様な個性を様々な角度から評価するため、推薦入学制度や特色化選抜制度、各校の特色に応じた学校独自の面接、作文又は実技を行う個性重視の特別試験などを実施します。
帰国・外国人児童生徒等への日本語指導体制整備事業の実施 <重点事業9>	日本語指導が必要な児童生徒が在籍している学校の教員を対象に、日本語指導の向上を図る専門研修を実施します。 また、日本語指導が必要な児童生徒に対する市町村教育委員会や学校における受入体制整備の支援に取り組みます。

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(2) ICTを活用した教育活動の推進 <施策14> 総務企画課、施設課、高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、体育スポーツ健康課

総合計画の内容

<現状・課題>

● 現在、ICT*があらゆる分野で活用されていることから、情報活用能力が必要不可欠になっています。今後、生活手段・学習手段としてますます重要になる情報活用能力を子どもたちに身に付けさせることが求められています。

<施策の方向>

○ ICTを活用できる教育環境の整備を進め、ICTを活用した学習・指導方法の改善・効率化を図ります。

※ ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。情報処理・通信に関連する諸分野の技術、設備、サービスの総称。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ ICTを活用できる教育環境の整備を進め、学習・指導方法の改善や効率化を行い、教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの充実を図ります。
- ◇ 令和2年度から小学校においてプログラミング教育が導入されるとともに、今後は小・中・高等学校を通じた系統的なプログラミング教育を柱として実施することを踏まえ、児童生徒の情報活用能力の育成に向けたプログラミング教育実施の支援と教員の指導力向上を図ります。
- ◇ 感染症や災害等による緊急時における学習の継続や様々な学習上の困難をもつ児童生徒への対応などの「学びの保障」のため、ICTの持つ特性を最大限活用する取組を推進します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名		概要
ICTを活用した教育推進事業（重点事業10）	ICT環境整備の実施	<p>学校における日常的なICTの活用や緊急時の「学びの保障」に対応するために必要なICT環境を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校段階における「1人1台端末環境」を、タブレット型パソコンの配備及びBYOD（個人所有機器の持込み）の活用により実現するため、ネットワーク上のセキュリティ環境を拡充します。 ・令和4年度までに予定していた県立高等学校、中等教育学校及び中学校の普通教室への大型提示装置の配備を令和3年度までに完了します。 ・教員のICT活用をサポートするICT支援員を全県立学校に配置し、効果的にICTを活用できる環境を整備します。 ・県立特別支援学校に、児童生徒の障がいの特性に応じたICT機器（分身ロボット・デジタル教科書等）を配備します。 ・教育事務所、教育センター、体育研究所において、各学校等へ適切な指導助言ができるようICT環境を整備します。
	教員のICT活用指導力向上研修の実施	<p>ICT活用中核教員、管理職等を対象とした研修など、学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じ、教員のICT活用能力を高めるための教員研修を実施します。</p>

	ICTを活用した先進的教育モデルの研究開発の実施	スタディ・ログ（学習履歴）を使った個別最適化の学習指導モデルや遠隔授業モデル等の研究やICTを効果的に活用した授業・学習等の在り方について研究します。
	情報活用能力向上事業の実施	小・中・高等学校を通じた系統的な情報活用能力の向上に向けて、モデルカリキュラムを踏まえたプログラミング教育実施の支援を行い、成果や実践事例を普及します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
県立学校におけるICT環境の整備	普通教室における大型提示装置の整備率	57.2% (R2 年度)	100% (R3 年度)
	高等学校段階におけるタブレット型パソコン(3クラスに1クラス分)の整備率	53.0% (R2 年度)	100% (R3 年度)
県立学校における授業でのICT機器の活用	ICT機器を授業で活用できる教員の割合	61% (R2 年度)	70% (R3 年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(3) 児童生徒の安全確保 < 施策 1 5 >

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 登下校中の子どもが巻き込まれる交通事故や子どもが被害者となる不審者等による事件が多発するなど、子どもの安全確保が重要な課題となっています。加えて、災害の発生に備え、全教職員が強い危機感をもって、組織的・計画的に安全教育を進める必要があります。

< 施策の方向 >

- 学校、家庭、地域、警察等の関係機関が連携し、学校における防犯教育や児童生徒の安全を確保する取組みの充実を図ります。
- 児童生徒が自らの判断で、安全を確保する能力を身に付ける防災教育を推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 児童生徒の安全に関する現状や課題を把握し、教職員、保護者、地域及び関係機関が一体となった地域ぐるみの学校安全体制の構築を図ります。
- ◇ 学校安全について先進的な指導方法や教育手法を研究し、その成果を普及することで、児童生徒の安全に関する資質・能力を育成します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
学校安全総合支援事業 (生活安全・交通安全・災害安全) の実施 < 重点事業 1 1 >	大学教授や安全教育3領域(生活安全・交通安全・災害安全)の専門家及び教育関係者等で組織した安全教育推進委員会を設置し、実効性のある学校安全教育を行う上での課題やその解決策等についての内容や方法等について協議します。 また、市町村教育委員会を単位としたモデル地域を指定し、地域全体での学校安全推進体制の構築を図るとともに、県内へその仕組みを普及することにより、学校安全の取組の推進を図ります。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
交通安全教育の推進	交通安全教室(高等学校は二輪車安全教室を含む。)を実施している学校の割合	小 100% 中 100% 高 100% (R1年度)	小 100% 中 100% 高 100% (毎年度)
防災教育の推進	地震に関する避難訓練の実施率	小 100% 中 100% 高 100% (R1年度)	小 100% 中 100% 高 100% (毎年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(4) 学校施設の整備・充実 <<施策16>>

施設課、高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 県立学校施設の半数、市町村立学校施設の6割が建設後30年以上経過していることから、計画的な老朽化対策が求められます。
- 学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難所としての役割も担っており、その安全性の確保は極めて重要です。
- 教材は子どもたちの基礎・基本の習得や学習理解を助け、教育効果を高める上で極めて重要であり、その充実に努める必要があります。

<施策の方向>

- 県立学校については「福岡県公共施設等総合管理計画」に基づき、適切な維持管理や長寿命化改修等を計画的に実施することによって、施設機能の回復・向上、バリアフリー化、教育内容への対応等を図ります。また、市町村に対しては、老朽化対策が円滑に進むよう広く情報提供を行います。
- 学校施設については、非構造部材（天井材、照明器具等）の耐震対策を推進するなど、防災機能の充実に図ります。
- 子どもたちが質の高い充実した環境の中で学ぶことができるよう、県立学校の図書館資料の充実や、教材の整備、ICT環境の整備などに取り組みます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 学校施設の安全性及び快適性を確保するため、老朽化対策を推進します。
- ◇ 情報漏洩や不正アクセス等の防止を図るため情報セキュリティの確保を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
学校施設の老朽化対策の推進	県立学校については「福岡県公共施設等総合管理計画」を踏まえて策定した「福岡県立学校施設長寿命化計画」（平成30年3月）に基づき、非構造部材（天井材、照明器具等）の耐震対策を含めた改築や大規模改修などの老朽化対策を計画的に実施します。 市町村に対しては、老朽化対策が円滑に進むよう国の方針や補助制度などの情報を提供します。
学習環境の整備	生徒が快適に学校生活を送ることができるよう、空調設備の整備管理を行います。
情報セキュリティの確保	管理職や情報担当者を対象とした研修を実施し、情報セキュリティに対する意識の向上を図ります。

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(5) 教育機会の確保 << 施策 17 >>

財務課、高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 本県は、全国と比較して就学援助や高校生等奨学給付金の受給割合が高く、厳しい就学環境の中で学習する子どもたちへの支援が求められています。

<施策の方向>

- 学ぶ意欲のある生徒が経済的理由で修学を断念することがないように、高等学校等就学支援金事業、高等学校奨学金事業及び高校生等奨学給付金事業等の充実に努めます。加えて、貧困をはじめとする厳しい環境の中で過ごしている子どもに対し、スクールソーシャルワーカー等による教育環境の改善に向けた支援などの充実に図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 生徒の学ぶ意欲に応える奨学金事業を円滑に実施します。
- ◇ 全ての生徒が安心して教育を受けられるよう、高等学校等就学支援金事業や返還の必要がない高校生等奨学給付金事業を着実に実施します。
- ◇ 貧困をはじめとする厳しい環境の中で過ごしている子どもに対し、教育環境の改善に向けた支援等の充実に図ります。
- ◇ 県立学校での長期入院生徒の学習機会の確保のため、在籍校、病院、教育委員会等の関係機関が連携を図り、学習支援の在り方について研究します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
高等学校奨学金事業の実施	経済的理由により修学が困難な生徒に対して、奨学金を無利子で貸与します。
高等学校等就学支援金事業の実施	一定の所得未満の世帯の生徒に対して、高等学校等就学支援金を支給することにより、公立高等学校等の授業料を実質無償とします。
高校生等奨学給付金事業の実施	高校生等がいる低所得世帯を対象に、返還の必要がない高校生等奨学給付金を支給します。
児童生徒を取り巻く生活環境改善事業の実施 <重点事業12>	貧困をはじめとする家庭環境の問題や生徒指導上の諸課題に対応するため、学校に教員以外の専門スタッフ（スクールソーシャルワーカー等）を配置・派遣します。特に全中学校区へのスクールソーシャルワーカーの配置に向け、市町村に対する支援の充実に図ります。
長期入院生徒学習支援実証研究事業の実施	県立学校での長期入院生徒に対する適切な学習支援の在り方を検討するため、動画配信授業のための環境整備や学習支援コーディネーターの配置により、ICTを活用した遠隔教育を実施します。

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
スクールソーシャルワーカーの配置	スクールソーシャルワーカーを配置している中学校区の割合	97.5% (R2年度)	100% (R3年度)

I 「学力、体力、豊かな心」を育成する

5 教育環境づくり

(6) 教員の指導力・学校の組織力の向上

《施策18》

教職員課、施設課、高校教育課、

義務教育課、特別支援教育課、体育スポーツ健康課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 学校現場における様々な課題に対応していくため、幅広い視野を持ち、実践的指導力のある人材を確保していく必要があります。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や英語教育等の新たな課題に対応した教員の指導力向上が求められています。
- 学校現場を取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、学校に求められる役割が拡大・多様化しています。このため、教員が子どもと直接向き合う時間の確保が求められています。また、教員の長時間勤務が大きな課題となっています。
- 病気により休職している教職員のうち、精神性疾患を理由とする休職者の割合は、依然として60%前後の割合で推移しています。

<施策の方向>

- 優秀な教員を採用していくため、採用試験の工夫改善、大学等と連携した教員養成の充実に努めます。
- キャリアステージに対応した教員研修体系を改善し、各種研修の充実に図ります。
- スクールカウンセラー等多様な専門スタッフの活用により、学校の組織力を高め、教員が子どもの指導に専念できる環境の整備を進めます。
- 校長のリーダーシップの下、教職員等が連携・協働し、学校全体で様々な課題に組織的に取り組んでいく体制づくりを推進します。
- 校務支援システムの導入による業務の効率化など、学校の業務改善に取り組みます。
- 教職員が指導上の悩み、ストレスに適切に対応し、健全な心身をもって、教育活動を行うことができるよう、教職員のメンタルヘルス対策の充実に図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備を進めていく中、優秀な教員を確保するため、採用試験の工夫改善を行うとともに、教員の適切な評価により、人材育成・能力開発や適材適所の人事配置を図ります。
- ◇ キャリアステージに応じて求められる資質・能力を明確にした教職員育成指標に基づき、研修を実施するとともに、校内研修・自主研修の推進、大学や教職大学院等と連携した研修等の充実に図ります。
- ◇ 校長のリーダーシップ等のマネジメント能力や教員としての使命感や社会性、専門的な知識・技能を高めるための研修の充実に図るとともに、メンタルヘルス対策など、教員に対するサポート体制の充実に図ります。また、児童生徒の個別の教育的ニーズに応じた指導や支援の徹底を図ります。
- ◇ 教職員の働き方改革取組指針（平成30年3月策定（令和3年3月改訂））に基づき、教職員が担うべき業務に専念できるよう、勤務時間管理の適正化や学校現場における業務改善、校務を情報化することによる効率化等、教職員の働き方改革を進めます。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
教員採用試験の改善・充実及び大学等との連携	教員採用試験においては、豊富な経験・知識を有している者や、新しい課題に対応できる者を採用する観点から、採用試験の工夫改善を図ります。 また、小学校の教員を目指す学生等に、本県学校教育の魅力を紹介するなど、大学等との連携を進めます。
教員の資質の向上	若年教員、中堅教員、ベテラン教員それぞれのニーズに対応した基本研修、今日的教育課題に応じた課題研修、教員や学校の課題に応じた専門研修を実施し、教員の資質・能力の向上に資する研修の充実を図ります。
若年教員の育成体制の構築	若年教員を指導するベテラン教員の大量退職期の到来にあたり、小中学校における育成方針、指導体制及び育成プログラムの策定を支援し、若年教員の効率的・効果的な育成体制の構築に取り組みます。
社会体験研修等の長期派遣研修の充実	研究機関や大学、民間企業等での長期間の研修を実施し、教員に幅広い社会的素養を身に付けさせ、教員としての資質・能力の向上を図ります。
教員評価の充実	人事評価制度を活用し、教員の能力開発と人材育成を図り、適切な人事配置を行うことにより、教員の意識改革や資質・能力の向上及び学校の活性化を積極的に推進します。
教職員のメンタルヘルス対策の充実	心身に悩みを抱える教職員を対象とする各種相談事業及び管理職や中堅教員を対象とするストレスマネジメント研修を実施します。
教職員の働き方改革の推進 ＜重点事業13＞	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年1月から県立学校に導入したICカードによる勤務時間管理システムを活用し、管理職による適切な業務・健康管理を実施するとともに、教職員の意識改革を推進し、超過勤務縮減につなげます。 校務の様々な情報を教員間で共有する学校用グループウェアの活用促進のための研修を実施するとともに、児童生徒の出欠や成績処理等の情報を一元管理するシステムを本格稼働し、校務の標準化と効率化を進めます。 中・高等学校及び特別支援学校への部活動指導員配置等と併せ、教員の負担軽減に向けた地域部活動に関する実践研究を実施します。 学校現場における業務改善や学校給食費の公会計化等の推進などに取り組みます。 <p>【参考】県立学校における超過勤務時間数（月平均）</p> <p>平成31年1月から令和元年12月まで … 39.3時間 令和2年1月から12月まで … 31.9時間</p>

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
県立学校教職員の超過勤務の縮減	超過勤務が月45時間超の教職員の割合（令和5年度までに解消）	33.2% (R1年度)	25%以下 (R3年度)
	超過勤務が年360時間超の教職員の割合（令和6年度までに解消）	55.1% (R1年度)	40%以下 (R3年度)

Ⅱ 「社会にはばたく力」を育成する

1 多様で特色のある能力や個性の伸長

(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実 <<施策19>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 科学技術の発展、グローバル化や情報化など変化の激しい社会において、これからの社会を支える意志と実践力を持った子どもの育成が求められます。
- 子どもが困難な課題に直面したとき、既存の発想にとらわれず、課題に対して柔軟に向き合い、新しい解決方法を考えていくことが必要です。

<施策の方向>

- 子どもが自律的に成長するための原動力となる学ぶ意欲、自尊感情等を育むため、「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす！」をコンセプトとした指導方法「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた教育活動を推進します。
- 科学技術等における次代を担う人材を育成する取組みなどを通して、子どもたちが持つ多様で特色ある能力や個性の伸長を図ります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善、校内での研修を行います。
- ◇ 「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた、学力・体力等の能力伸長の基礎となる資質・態度を育成する教育活動を推進します。
- ◇ グローバル化の進展、科学技術の発展、少子高齢化及び情報化などが急激に進む中で、これからの社会を支える意志と実践力をもった児童生徒を育てる教育の充実を図ります。
- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策と学習保障の両立を図る人的体制の充実を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
「 ^{きた} 鍛ほめ福岡メソッド」 総合推進事業の実施 ＜重点事業14＞	小・中学校において、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた実践を通して、学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等を育成するとともに、基礎学力の定着を図る取組における「鍛ほめ福岡メソッド」の相関について研究を行います。
少人数指導や習熟度別指導の推進	指導方法・体制を工夫改善し、個に応じたきめ細かな指導、校内での研修を推進します。 また、ICTの活用等による主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法の改善・効率化を図ります。
小・中学校の連携強化による 一貫性のある教育の推進	中一ギャップの解消や学力向上の継続的な取組の充実のため、中学校区内の小・中学校の連携強化を図ります。
高校生知の創造力育成 セミナー事業の実施	大学教授などを講師に合宿セミナーを実施し、知識・技能などを活用して思考力・判断力・表現力などを高め、課題解決能力を育み、グローバルな視野で考察できる人材を育成します。
次世代の科学技術を担う 人材育成事業の実施	科学技術に関するコンテストを実施し、科学技術系人材の裾野を広げるとともに、「科学の甲子園」及び「科学の甲子園ジュニア」などの全国大会で入賞できる能力を養い、国際社会で活躍できる優秀な人材を育成します。
専門高校生実践力向上事業の実施	高校生産業教育フェアやものづくりコンテストの実施及び資格取得・GAP認証等への取組により、専門知識や得意技を磨き、実践的で専門的な職業人として地域の担い手となる人材を育成します。
今日的な課題に対応した 教育の推進	各教科や総合的な学習（探究）の時間などを通して、主権者教育、消費者教育、租税教育、人権教育などの今日的課題に対応した教育を推進します。
市町村立学校学習指導員等 配置事業の実施	新型コロナウイルス感染症対策として、3密を避けるための環境づくり、習熟度に応じた学習の充実等、児童生徒の学びの保障をサポートする学習指導員等の配置及び事務的業務や消毒作業等、教員をサポートするスクール・サポート・スタッフの配置を支援します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
科学技術系人材 の育成	高校生科学技術コンテストの受験者数	685人 (R2年度)	1,200人 (毎年度)
	科学の甲子園ジュニア(中学生対象)の参加チーム数	181チーム (R1年度)	150チーム (毎年度)
農業人材の育成	農業関係学科から農業関連分野へ就職・進学した生徒の割合(県立高等学校)	32.0% (就職:32.5%) (進学:31.3%) (R1年度)	34.0% (R3年度)

Ⅱ 「社会にはばたく力」を育成する

1 多様で特色のある能力や個性の伸長

(2) 特別支援教育の推進 <<施策20>>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 「障害者の権利に関する条約」に掲げられたインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、障がいのある子どもたちの自立と社会参加を推進していくことが一層強く求められています。
- 本県では、特別支援学校に在籍する子どもの数が一貫して増加傾向にあります。また、特別支援学級に在籍する子どもの数や通級による指導を受けている子どもの数も増加傾向にあります。

<施策の方向>

- 特別支援教育を推進するための中長期的な計画を策定し、インクルーシブ教育システムの構築、就学前から卒業後まで一貫した継続性のある指導・支援の充実、教育環境の整備、教職員の専門性の向上及び特別支援教育推進体制の整備・充実などに取り組みます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築を推進します。
- ◇ 障がいのある子どもの自立と社会参加を目指し、就学前から学校卒業後までを見通した、一貫した継続性のある指導・支援の充実を図ります。
- ◇ 障がいのある子どもが安全・安心かつ効果的に学べる教育環境の整備を推進します。
- ◇ 障がいのある子どもの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うため、教職員の専門性向上と組織体制の整備を図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
特別支援学校の教育環境の整備	「県立特別支援学校の今後の整備方針について」（平成28年11月）及び「県立特別支援学校設置計画」（平成31年2月）に基づき、県立特別支援学校の整備を推進します。
特別支援学校医療的ケア体制整備事業の実施	県立特別支援学校において、医療的ケアの高度化・複雑化・多様化に対応するため、通常の看護職員に加え、指導的立場となる看護職員を配置し、医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が安全に教育を受けられる環境の充実を図ります。また、医療的ケアガイドラインの策定に取り組みます。
特別支援学校専門スタッフ強化事業の実施	特別支援学校において、医療・保健・心理等に関する専門スタッフを配置・活用することにより、専門性の向上と組織力の強化を図るとともに、地域内の小・中学校等に在籍する障がいのある子どもに対する相談・支援機能の充実を図ります。
高等学校等における特別支援教育の充実	県立中学校、高等学校及び中等教育学校において、特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援を行うための手立てを示した「サポートヒントシート」や特別支援教育ボランティアの活用、特別支援教育コーディネーター研修会の充実等を通して、特別支援教育の一層の充実を図ります。
高等学校等特別支援教育推進事業の実施	県立中学校、高等学校及び中等教育学校において、特別支援教育支援員を配置することを通して、特別な支援を必要とする生徒に対して、学習支援や介助等を行い、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の一層の充実を図ります。
高等学校等通級指導推進事業の実施	県内4地区に1校ずつ拠点校を設け、県立高等学校及び中等教育学校後期課程に在籍する発達障がいのある生徒を対象に、学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする通級による指導を実施します。
発達障がい児等教育継続支援事業の実施	幼稚園、保育所、認定こども園、小・中学校、高等学校等において、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒が、一貫した継続性のある支援を受けることができるようにします。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
特別支援教育体制の整備	公立の幼稚園、認定こども園、小・中・高等学校等において、特別な支援が必要であると考えられる幼児児童生徒に対する①個別の指導計画及び②個別の教育支援計画の作成の割合	① 99.3% ② 99.3% (R2年度)	① 100% ② 100% (R3年度)

Ⅱ 「社会にはばたく力」を育成する

2 キャリア教育の充実

(1) キャリア教育・職業教育の推進 ≪施策21≫

施設課、高校教育課、義務教育課、
特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 変化の激しい社会の中で、子どもが希望を持って、自立的に自分の未来を切り拓いていくためには変化に対応していく力と態度を育成することが重要であり、仕事を通して生きることを考えさせ、社会で自立していく力を身に付けるためのキャリア教育・職業教育が求められています。

<施策の方向>

- 地域の企業・経済団体等と連携して、子どもの発達段階に応じた勤労観・職業観を育み、自立した生き方を考えさせるためのキャリア教育、各地域のニーズに応じた職業教育を推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を身に付け、生涯にわたって社会的・職業的自立ができるよう、地元の企業・経済団体と連携したキャリア教育の充実を図ります。
- ◇ 企業が求める実践的な人材育成、継続的な育成環境を整えるため、地域の企業や市町村等と連携し、地域産業のニーズに応じた新たな教育内容の取入れを図ります。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名		概要
キャリア教育総合推進事業（重点事業15）	地域の企業・経済団体等と連携したインターンシップ等の推進	小・中学校においては、各学校におけるキャリア教育推進のため、事前・事後の学習を充実して、職場体験活動を実施します。また、県立高校においては、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、進路を主体的に選択できるよう、各種経済団体等との連携を深め、出前講座や高校生等を対象としたインターンシップの取組を推進します。
	地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施	地域の産学官等と連携した協議会を設置し、外部講師による授業や企業・地域と連携した実践的な学習を通して、地域や地域産業を担う人材を育成します。
	高校生みらい支援事業の実施	県立学校に進路支援コーディネーターを配置し、生活困窮世帯等を中心に進路支援が必要な生徒に対し、自らの適性についての認識や将来の展望及び職業に対する意識を高めさせ、生徒の進路実現を支援します。 また、就職指導員を配置し、新規の求人開拓や生徒の面接指導など就職決定までの支援を強化します。
	新規高卒者の就職支援の充実	学校を挙げての求人開拓や生徒面談等の充実による各学校での支援の強化を図るとともに、新規高卒者就職面談会等の関係機関と連携した取組を実施します。
	県立工業高校産業人材育成事業の実施	産学官が連携して、企業における訓練等を通して、先端成長産業をはじめ幅広い産業に対応できる、高度な技術や実践的なものづくり技能を持つ人材を育成します。また、地域内の関係団体と連携し、学校外の人的・物的資源を活用した実践的な専門教育を行い、地域を支える人材を育成します。
	未来を切り拓く人材育成事業の実施	県立学校において、生徒や地域の課題等を地域と共有し、地域と連携した取組を実施します。この取組を通じて、生徒たちの社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成します。
	特別支援学校等就職支援事業の実施	県立特別支援学校において、卒業後の社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育てるとともに、学校と企業関係者、労働・福祉等の関係機関との連携強化を図り、実習先・進路先の開拓等を進めます。
	特別支援学校技能検定事業の実施	特別支援学校高等部生徒の就職意欲を高めるとともに、企業等に雇用を促すため、企業団体と連携して開発した認定資格を授与する技能検定を実施します。
デジタル化対応産業教育設備の整備	地域の産業を支える職業人材の育成を進めるため、工業や農業等の職業系専門高校に最先端のデジタル化に対応した産業教育設備を整備します。	

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
キャリア体験活動の実施	県立高等学校における職業や進路研究等に関する体験活動への参加率	96.5% (R1年度)	100% (R3年度)
就職意欲の向上	県立知的障がい特別支援学校高等部における就職希望率	45.4% (R2年度)	50% (R3年度)

Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する

1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

(1) 国際的視野を持つ人材の育成 << 施策 2 2 >>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 福岡県が発展していくためには、国際的な広い視野を備え、地域社会に貢献できるような人材、地域に根差したグローバルリーダー（いわゆるグローバル人材）を育成していくことが求められています。
- 異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と協調していくためには、外国語能力、とりわけ実践的な英語力を身に付けることが必要です。

< 施策の方向 >

- グローバル化等の変化の激しい社会を生き抜くためには、新しい価値を生み出す創造性やチャレンジ精神等が求められます。このため、大学、企業等と連携し、創造力を育成する学習や体験活動を通して、子ども達に困難な課題を解決する能力やコミュニケーション能力等を身に付けさせます。
- 子どもの英語でのコミュニケーション能力を育成するため、英語ディベート活動、プレゼンテーション活動等を実施するとともに、早期化・教科化する小学校での英語教育に対応した指導体制の整備に取り組みます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 英語教員の英語力向上を図るとともに、「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能を総合的に育成する授業改善を進め、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。
- ◇ 児童生徒の英語コミュニケーションへの意欲や英語力を高める取組を推進します。
- ◇ 英語教育における市町村の体制整備への支援を行います。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
世界に挑む人材育成事業の実施	海外の高等学校への留学の経費支援や留学説明会を実施し、将来、世界を舞台に活躍し、国際社会の持続的発展を支える優れた人材を育成します。
グローバル化に対応した英語教育の推進 ＜重点事業16＞	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、英語力・指導力の高い教員を育成する研修を実施するとともに、児童の英語コミュニケーションへの意欲向上を図るための交流会を実施します。 ・中学校においては、中学3年生に対する英検 I B Aの実施や英語スピーチコンテストを開催し、英語力の高い生徒を育成します。また、英語学習支援員の配置や学習ソフトの活用に係る補助を通して、英語教育における市町村の体制整備への支援を行います。 ・高等学校においては、英語活動指導員を配置して英語以外の教科における英語イマージョン教育を実施し、課題解決力及び実践的英語コミュニケーション力を育成します。また、4技能型の授業改善に活用するため、英語を母語とし、高い指導力を有する人材をネイティブ英語教員として配置するとともに、生徒に対し英検等外部検定試験の受験費用の助成を行います。 ・高等学校英語教員の海外派遣や、外国語指導助手（A L T）の配置など、グローバル化に対応した英語教育の指導體制を整備します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
生徒の英語力の向上	CEFR A1 レベル相当以上（英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合	46.9% (R1年度)	50% (R3年度)
	CEFR A2 レベル相当以上（英検準2級程度以上）の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合	48.5% (R1年度)	50% (R3年度)

Ⅳ 生涯学習社会をつくる

1 生涯学習・社会教育の総合的推進

(1) 社会教育活動の推進 < 施策 2 3 >

社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 社会教育とは、学校の教育課程として行われる教育活動を除く組織的な教育活動です。その実施主体、形態や方法等は多様かつ広範であり、社会教育は生涯学習を進める上で重要な役割を果たしています。
- 少子化、核家族化、コミュニティの希薄化などに伴い、家庭や地域社会が急速に変化しており、今後子どもたちの活動や学校に対する支援をより充実させることが求められています。

< 施策の方向 >

- 社会教育に関する情報の提供や相談体制の充実を図るなど、よりよい学習環境を提供するとともに、学習の効果を発揮できる機会が提供されるよう支援します。
- P T A、子ども会、婦人会などの関係機関・団体との連携・協力体制を強化し、社会教育の振興を図ります。
- 学校を支援する体制を整備するなど、社会教育活動の活性化に向けた人的ネットワークの構築を図るとともに、その中核となる社会教育主事等の社会教育関係職員の一層の資質向上に努めます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 高度化、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、よりよい学習環境を提供します。
- ◇ 県民の学習ニーズや社会的課題に対応した学習機会を提供するとともに、学習成果を活用する機会の充実を図ります。
- ◇ 県民の学習に対する意欲を高め、主体的な学習活動を促進するため、関係機関、団体（P T A・子ども会など）との連携・協力体制を強化します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
N P Oやボランティア団体との連携・協力の推進	N P Oやボランティア団体との連携強化を図るため、「みんなで育もう！ふくおか子ども育成支援フォーラム」や「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」を開催します。
社会教育関係団体等に対する育成支援・補助	社会教育関係団体が実施する研修会などにおいて、講義や指導助言などの活動支援を行うとともに、団体助成金を交付します。
社会教育関係職員の資質向上	社会教育・生涯学習関係職員等研修会や県社会教育主事等研修会などを開催して、社会教育関係職員の資質向上を図ります。
ふくおか社会教育応援隊事業の実施 < 重点事業 7 >	「ふくおか社会教育応援隊（県の社会教育主事等）」が、家庭教育や子どもの読書活動などの課題に対応する講義・演習等を行い、市町村や団体、サークル等の育成支援を行います。
県立社会教育総合センター等での学習情報の提供及び学習相談の充実	「ふくおか社会教育ネットワーク」の活用などをはじめ、社会教育に関する情報提供や学習相談の充実を図ります。
現代的な課題に関する学習機会の提供とボランティア活動の促進	県立社会教育施設において、地域学校協働活動や環境保全、家庭教育支援などの現代的課題に対応した事業を実施します。 また、県立社会教育施設でボランティアの養成・登録を推進するとともに、ボランティアの活用促進を図ります。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
社会教育に関する学習情報提供の充実	「ふくおか社会教育ネットワーク」へのアクセス件数	477,650 件 (R1 年度)	300,000 件 (毎年度)

IV 生涯学習社会をつくる
2 生涯学習・社会教育環境の整備

(1) 社会教育施設の充実 << 施策 2 4 >>

社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 社会教育とは、学校の教育課程として行われる教育活動を除く組織的な教育活動です。その実施主体、形態や方法等は多様かつ広範であり、社会教育は生涯学習を進める上で重要な役割を果たしています。
- 県民の様々な学習ニーズに応える社会教育施設の充実したサービスの提供などが求められています。

< 施策の方向 >

- 県立社会教育施設において、県民の学習ニーズに即した学習プログラムの開発に取り組み、社会教育活動を推進します。
- 図書館や青少年教育施設などの県立社会教育施設の機能充実と利用促進を図るとともに、社会教育施設職員の資質向上に努めます。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、県立社会教育施設の機能充実と利用促進を図ります。
- ◇ 県民のニーズに対応できるよう社会教育関係職員の専門性を高めます。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
県立社会教育施設の機能充実	青少年教育施設において、県民のニーズを踏まえた施設の運営やサービスの充実に努めます。 県立図書館において、電子書籍を含むデジタル資料の充実に努めます。
県立社会教育施設の利用促進	県民の多様な学習活動に対応したプログラムの開発や家庭教育支援のための事業などを実施し、施設の利用促進を図ります。
社会教育施設職員の資質向上	図書館職員研修や県社会教育主事等研修など、司書や社会教育主事、学芸員などの専門職員研修を実施します。

V 県民の文化活動を盛んにする

1 文化の振興

(1) 県民文化芸術活動の振興 < 施策 25 >

社会教育課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 現代は、経済的な豊かさに加え、心の豊かさが求められる時代です。文化芸術には、楽しみ、喜び、精神的な安定をもたらす効果があり、より身近なところで文化芸術に親しめる環境づくりが求められています。
- 「県民意識調査」では、文化・スポーツに関する施策のうち「文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会の充実」への県民からの要望が継続して高い状況にあります。
- 昭和 39(1964)年の開館以来、本県の文化芸術の発展や振興に貢献してきた県立美術館は、施設の老朽化、狭隘化などのため、十分な役割が果たせない状況にあります。

< 施策の方向 >

- 障がいの有無を問わず、県民の誰もが文化芸術に触れ親しむことができるよう、文化芸術を鑑賞・創作する機会の充実を図るとともに、文化芸術活動に参加し、その成果を発表できる場の充実を図ります。
- 次代を担う子ども、若者が地域の特色ある文化芸術に触れる機会の充実を図ります。
- 県立美術館の機能充実に努め、県民の鑑賞・創作活動の機会の充実を図るとともに、新しい県立美術館の整備方針を検討します。

令和 3 年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 次代を担う子どもたちの創造性を育み、多様な個性と豊かな人間性の形成を図るため、関係機関との連携を強化しながら、子どもの文化芸術活動を推進します。
- ◇ 県立美術館の機能充実に努め、県民の鑑賞・創作活動の促進を図ります。
- ◇ 令和 2 年 2 月に策定した「福岡県文化庁活動の在り方に関する指針」に則った適正な運営により文化庁活動の推進を図ります。

令和 3 年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
子ども文化事業の実施	ふくおか県民文化祭で開催される子ども文化事業において、子どもの文化活動の発表や舞台芸術鑑賞の機会を提供する「鑑賞・発表事業」、また、県内小・中学校等に芸術家などを派遣し、様々な芸術文化を体験する「芸術体験講座」を実施します。
中学校文化連盟、高等学校芸術・文化連盟への支援	中学校文化連盟、高等学校芸術・文化連盟への助成金の交付や情報提供などにより、事業活動を支援します。
県立美術館の機能の充実	展覧会事業や貸館事業の実施、インターネット上で県立美術館の所蔵作品を鑑賞できる「バーチャル美術館」の公開など、県民の鑑賞・創作活動の充実を図ります。 また、美術教養講座、講演会、スクール・ミュージアム事業の実施などにより教育・普及活動の充実を図ります。

V 県民の文化活動を盛んにする

1 文化の振興

(2) 文化財の保存・活用及び継承 << 施策 26 >>

文化財保護課

総合計画の内容

< 現状・課題 >

- 本県には、遠(とお)の朝廷(みかど)と呼ばれた大宰府政庁が置かれ、西日本における政治、経済、外交の中心地として栄えてきました。我が国は、九州を経由して広がったアジア文化の影響を受けつつ、世界に誇るべき独自の文化を形成しており、県内には中国大陸や朝鮮半島との交流を示す数多くの文化遺産が存在します。

< 施策の方向 >

- ユネスコの世界文化遺産や無形文化遺産のみならず、地域の貴重な文化遺産と伝統・文化を確実に保存し後世に継承するとともに、文化財保護思想の普及啓発に努め、県民が郷土の歴史に誇りを持ち、親しめる環境をつくります。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 歴史と伝統に培われた貴重な文化財を永く後世に伝えるため、福岡県文化財保護大綱を踏まえ、保護活動の充実を図り、情報提供や文化財に対する理解を深める施策を推進します。
- ◇ 県民一人ひとりが、地域の身近な文化財の価値を認識し、大切にしていける想いを共有できる文化財保護の基盤の構築に努めます。
- ◇ 地域に根ざした文化財の保存・活用を推進し、県民と共に多彩な文化財を育みながら、未来への継承を図ります。
- ◇ 県内各地域の文化財を保存・活用していくために、地域との積極的な連携による、地域主体の文化財保護を推進します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
九州歴史資料館の利用促進、調査・研究の充実	九州歴史資料館の利用促進のため、常設展示内容の充実とともに、時宜を捉えた特別展や企画展を開催するほか、小中学校における学習段階に応じた出前授業や子ども向けイベントなどを実施します。
旧福岡県公会堂貴賓館の利用促進	重要文化財旧福岡県公会堂貴賓館の利用促進のため、観光資源としての魅力向上を目指し、指定管理者と連携・協力した活用方策の充実を図ります。
福岡歴史文化発信・体感事業の実施	本物の文化財に触れ、体験活動ができるような仕掛けを行うほか、文化財や調査記録等をデジタル化しホームページに掲載するなど文化財の活用促進や情報発信に取り組みます。
日本遺産「古代日本の『西の都』」魅力発信事業の実施 < 重点事業 17 >	多言語対応のガイドブック及びパンフレットの作成、日本遺産を構成する文化財の解説案内板を設置し、日本遺産「古代日本の『西の都』」を知ってもらうとともに、新たな発見や郷土への興味と関心を抱けるような機会の提供に取り組みます。

VI 県民のスポーツ活動を盛んにする

1 大規模国際スポーツ大会等を契機としたスポーツの振興による地域活性化

(1) 県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進 <施策27> 体育スポーツ健康課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 県内には、競技人口が少ない、指導体制や組織体制が十分でない、さらには、競技を実施する場所が少ない等、選手の効果的な強化が困難な競技団体も見られます。こうした競技団体が、安定した競技力を維持できるような取組みが必要です。
- 国民体育大会において高いレベルで競技成績を維持し、恒常的に入賞できるよう、毎年人材が入れ替わるジュニア期を中心に強化に取り組む必要があります。
- 世界で活躍できるトップアスリートになるためには、専門的な技術はもとより、世界のスポーツ情勢、最新のスポーツ医・科学情報、メンタル面・栄養面からの知識等、様々な能力や知識が必要となります。こうした高度な専門的分野の指導ができる指導者の育成、指導体制の整備が求められます。

<施策の方向>

- 「福岡県タレント発掘事業」をはじめ、国、県競技団体との連携を密に図りながら、恒常的に人材を獲得できるシステムづくりに取り組みます。
- 関係機関・団体と連携して、一貫指導システムの構築を推進するとともに、指導者の資質向上やスポーツ情報の活用促進などに取り組み、ジュニア期からの最適な指導体制の構築を推進します。
- 個人の能力を最大限に伸ばすことができる育成プログラムの策定、選択した競技が実施できる場づくり、高い指導技術・資格を有する指導者の育成を柱に、魅力ある育成環境の整備を推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 県民に夢や感動を与えるトップアスリートを育成し、本県の競技力向上を図るため、関係機関・団体と連携して、一貫指導システムの構築を推進するとともに、指導者の資質向上やスポーツ情報の活用促進、「誠実性・健全性・高潔性」といったスポーツ・インテグリティの確保に関する研修に取り組みます。
- ◇ ジュニアや大学・社会人、女性アスリートの育成強化、さらに本県の得意種目を有する競技団体への支援を行うとともに、県立体育・スポーツ施設の整備に取り組みます。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
競技スポーツ振興事業の実施	本県の競技力向上を図るため、指導者等に最新のスポーツ振興方策やスポーツ医・科学に関する情報提供、スポーツ・インテグリティの確保に関する研修会の実施等を行い、指導者の資質向上を推進します。
県立体育・スポーツ施設の整備と活用促進	久留米スポーツセンター等の施設設備を整備します。 また、スポーツ医・科学を活用した相談事業を実施します。
競技者育成・競技団体等活性化事業の実施 <重点事業18>	国際大会等世界の舞台で活躍するなど、スポーツの力で県民に夢や感動を与えることができるトップアスリートを輩出するため、スポーツに取り組む小・中学生の発掘から始まる各年代の「育成強化システム」を構築します。 ・小・中学生の発掘育成活動などを支援 ・日本代表候補など中・高校生アスリートの海外遠征を支援 ・国体ふるさと選手の強化活動などを支援 ・女性アスリートの強化拠点づくりなどを支援

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
競技スポーツの振興	国民体育大会における男女総合成績順位	11位 (R1年度)	8位 (毎年度)
女性アスリートの育成	国民体育大会における女子総合成績順位	10位 (R1年度)	8位 (毎年度)

Ⅶ 人権が尊重される心豊かな社会をつくる

1 人権尊重の意識や行動の定着及び人権施策の推進

(1) 人権教育・人権啓発の推進 <施策28>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課、

人権・同和教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 人権尊重社会の確立に向け、あらゆる機会を通じて人権教育・人権啓発に関する施策を総合的に推進した結果、人権に対する認識は高まっていますが、依然として、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がいのある人などに対する偏見や差別が、学校、地域、家庭、職域などの社会生活の様々な局面において存在しています。
- 情報通信技術の発達に伴い、電子掲示板やホームページ、メール、SNSなどインターネットによる差別や人権侵害が問題となっています。
- 同和問題に関する差別意識は徐々に解消に向けて進んでいるものの、依然として差別事象が発生しています。また、インターネット上に同和地区の名称、所在地等の情報を掲載するなどの悪質な差別行為も発生しています。
- 女性、子ども、高齢者、障がいのある人等に対する虐待など深刻な人権侵害事象も増加しています。また、性同一性障がいや性的指向・性自認を理由とする偏見や差別などの人権問題が顕在化しています。さらに、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的な言動、いわゆるヘイトスピーチなどが喫緊の課題となっています。
- 近年、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」や「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」、「部落差別の解消の推進に関する法律」といった個別の人権課題についての法整備が進んでいます。

<施策の方向>

- 人権尊重の意識や行動が定着するよう、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」、「福岡県人権教育・啓発基本指針」に基づき、あらゆる機会をとらえて人権教育・人権啓発を推進します。
- 学校教育においては、自他の人権を守ろうとする実践力を持った子どもを育成するため、指導内容及び方法を開発する研究実践を行い、教育活動全体を通じた人権教育を推進します。
- 広く県民を対象に人権問題に関する学習機会を提供するとともに、人権尊重の精神の育成などを図るため、人権に関する学習を推進・支援します。
- 公務員、教職員、警察職員、福祉関係者、医療関係者、マスメディア関係者等、人権に関わりの深い特定の職業に従事する者に対して、人権尊重の精神を涵養するため、研修の一層の充実を図ります。
- 同和問題について正しい理解と認識を深めるため、啓発活動を充実強化するとともに、市町村、企業、地域団体などの啓発研修に対する支援を行います。また、学校や地域、家庭において、同和問題に関する差別意識の解消に向けた教育を推進します。
- 日本人と外国人が異なる文化や価値観などを理解し、ともに暮らす社会づくりのために、国際理解のための啓発を推進します。また、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的な言動、いわゆるヘイトスピーチの解消に向けた人権教育・啓発等を推進します。
- 近年、社会的な関心が高まっている性的少数者、ホームレス、犯罪被害者の人権問題や拉致問題などについて、様々な機会を捉えた人権教育・啓発を推進します。

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 学校の教育活動全体を通して、児童生徒の学力と進路の保障を図るとともに、人権に関する知識や意欲・態度、実践力を身に付けるための教育を系統的、効果的に推進します。
- ◇ 個別的な人権課題について、法律や「福岡県障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」、「福岡県部落差別の解消の推進に関する条例」等を踏まえた教育・啓発の推進とともに、性的少数者や感染症等に関する適切な理解促進と必要な支援の充実を図ります。
- ◇ 人権教育に係る指導力向上等のため、「教職員の人権意識、人権教育に関する調査」結果等を踏まえ、研修の改善・充実を図るとともに、効果のある取組についての実践的研究を進めます。
- ◇ 児童虐待の早期発見に努めるとともに、「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」を踏まえ、事案を発見した場合は、速やかに関係機関と連携して適切な対応を図ります。
- ◇ 県民の人権尊重理念の理解・体得のために、体験活動を重視した学習プログラムなどの開発や、情報提供を行います。
- ◇ 地域の実情に応じた人権教育推進のための担当者研修会や指導者の育成を計画的、効果的に行い、市町村における人権教育・啓発を支援します。

令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
個別の人権課題に関する指導方法等調査研究事業の実施 ＜重点事業19＞	個別の人権課題に関する学習内容や指導方法等の体系化・標準化及び教員の指導力の向上を図るため、調査研究委員会で、指導方法等の実態調査や指導案の検討・作成を行い、指導内容や指導方法の在り方について調査・研究を進めます。また、検証校を指定し、作成した指導案等を基に検証授業などを行います。
人権教育を基盤にした学校づくり研究事業の実施	児童生徒の学力向上や自己実現を阻害する要因に対して、学校教育全体を通じた人権教育の取組を通して、学力向上を図る学校の在り方について究明するため、研究指定校による実践的な研究を進めます。
人権教育実践交流会・人権教育指導者養成連続講座の実施	多様な校種や職種での実践交流や研究協議を行い、学校教育及び社会教育において、様々な人権問題に関する、より高度な課題解決能力や指導方法を探求する機会を設けます。
人権教育コーディネーター養成講座の実施	市町村職員などを対象として、人権に関する学習活動の企画・立案に携わる人権教育指導者を養成する研修会を開催し、本県人権教育の充実を図ります。
男女共同参画教育の推進	小・中学校においては、各教育事務所における研修会や校内研修で「男女共同参画教育指導の手引」を活用することにより、豊かな心、性差の正しい認識、自立する力、実践的態度などの資質・能力を育てる教育活動を推進します。 県立高等学校においては、生徒の指導に当たって、教科や特別活動で、男女がお互いを尊重しあい、社会の対等な構成員として責任を担う意識と態度を育てます。
男女共同参画についての教員研修の実施	管理職や初任者などを対象に、男女共同参画教育の基本的な考え方やねらいなどの理解、具体的指導力を高める研修を実施します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値
人権教育の推進	人権教育推進の中核となる指導者養成研修を修了した教員の累計人数	464人 (R2年度)	484人 (R3年度)

重点的に取り組む事業

令和3年度の新規の施策や「福岡県の教育施策の体系」(P4)に示す13の項目において、特に重点的に取り組む施策に関する事業について、以下に示します。

1	学力向上総合推進事業	45
2	福岡県体力向上総合推進事業(一部新規)	46
3	ワンヘルス教育推進事業(新規)	47
4	いじめ・不登校総合対策事業(一部新規)	48
5	保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業	49
6	子どもの読書習慣形成・定着支援事業(新規)	49
7	地域と一体となった学校づくり事業	50
8	ふくおか社会教育応援隊事業	50
9	帰国・外国人児童生徒等への日本語指導体制整備事業	51
10	ICTを活用した教育推進事業(一部新規)	52
11	学校安全総合支援事業	53
12	児童生徒を取り巻く生活環境改善事業	53
13	教職員の働き方改革推進事業(一部新規)	54
14	「 ^新 鍛ほめ福岡メソッド」総合推進事業	54
15	キャリア教育総合推進事業(一部新規)	55
16	グローバル化に対応した英語教育推進事業	56
17	日本遺産「古代日本の『西の都』」魅力発信事業(新規)	56
18	競技者育成・競技団体等活性化事業	57
19	個別の人権課題に関する指導方法等調査研究事業	57
20	新型コロナウイルス感染症対策関連事業(一部新規)	58

県、市町村、学校が一体となった学力向上の取組を総合的に展開することにより、児童生徒の実態に即した取組を強化して、確かな学力を育みます。

確かな学力の育成



子どもの体力向上を総合的に図るため、体育・保健体育科授業の充実を核とした体力向上プランの作成・実施、スポコン広場の普及、中・高・特別支援学校へ部活動指導員の配置等を行います。また、子どもの運動・スポーツへの動機付けや運動の習慣化を強化するために、県立学校にオリンピック・パラリンピアンを派遣する体験教室などを開催する事業等を行います。

子どもの運動習慣の定着と体力向上

子どもの体力向上に係る総合的な取組

運動・スポーツへの動機付けと習慣化

小学生チャレンジ

スポーツプロジェクト

スポコン広場チャレンジ
ランキングゾーン、みんな
でダンスの実施及びス
ポコン広場大会の開催

部活動指導員の配置

- ・県立学校に部活動指導員を配置
- ・市町村立中学校（指定都市を除く）への部活動指導員配置事業に係る経費の助成

オリンピック・パラリンピアン派遣事業

県立学校にオリンピック・パラリンピアンを派遣し、各競技の体験教室等を開催

地域部活動推進事業

- ・休日の部活動の段階的な地域移行に向けた実践研究
- ・合理的で効率的な部活動の推進に向けた実践研究

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業

小・中・高・特別支援学校の推進校において、オリンピック・パラリンピック教育の効果的手法を調査研究

体力アップシートの配布

- ・運動やスポーツへの動機付けを図るため、運動・スポーツへの取組や新体力テストの結果が記録できるシートを配布

教員の指導力向上

小・中学校体力向上指導者研修会

小・中学校の体育担当教員を対象として、体力向上に関する取組についての研修を実施

運動部活動指導力向上研修会

中・高等学校の運動部活動顧問を対象として、指導力向上のための講義及び実技を実施

タグラグビー指導者研修会

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教員対象の指導者研修会を開催

体育・保健体育科授業の充実・改善

「1校1取組」運動を位置付けた体力向上プランの作成・実施（計画的・継続的な取組の充実）

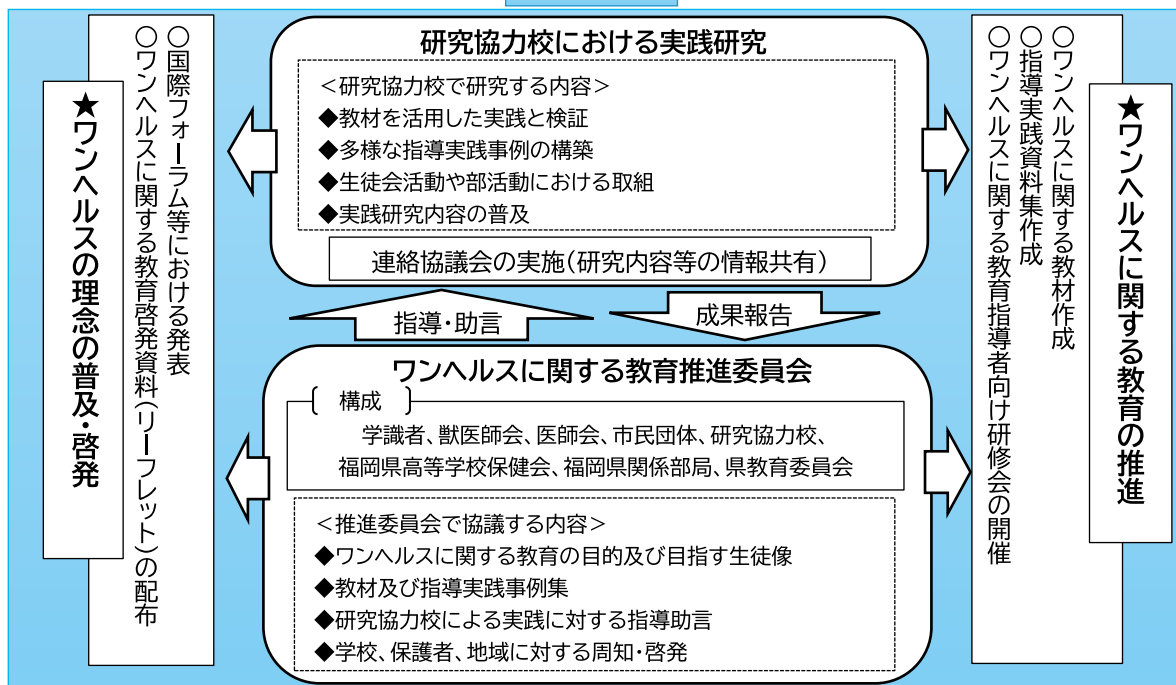
「運動の楽しさ・喜び」の実感



事業費：126,070千円

生徒が生涯にわたって自らの健康や環境を適切に管理・改善していくための資質・能力を身に付けるため、高校生を対象としたワンヘルスに関する教育の教材を作成し、その活用方法についての研究を行うとともに、ワンヘルスの理念の普及・啓発を図ります。

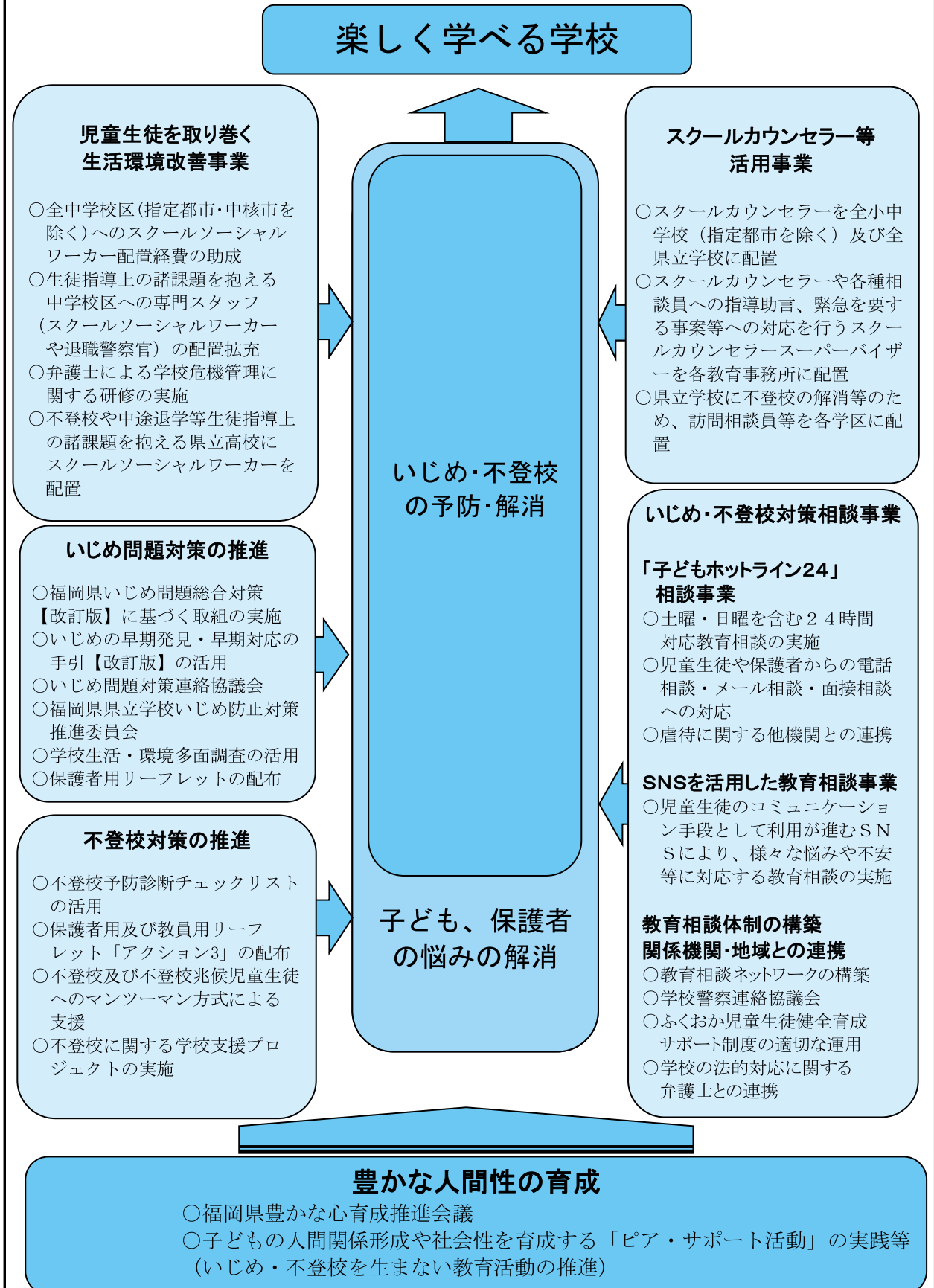
生涯にわたって自らの健康や環境を適切に管理・改善していくための資質・能力の育成



福岡県ワンヘルス推進基本条例の制定(令和3年1月施行)

事業費：19,718千円

楽しく学べる学校づくりを推進するため、教育相談体制の整備・充実及びスクールカウンセラー等の専門家や関係機関等との連携・協働により、いじめ・不登校の予防・解消を図ります。



楽しく学べる学校

児童生徒を取り巻く生活環境改善事業

- 全中学校区（指定都市・中核市を除く）へのスクールソーシャルワーカー配置経費の助成
- 生徒指導上の諸課題を抱える中学校区への専門スタッフ（スクールソーシャルワーカーや退職警察官）の配置拡充
- 弁護士による学校危機管理に関する研修の実施
- 不登校や中途退学等生徒指導上の諸課題を抱える県立高校にスクールソーシャルワーカーを配置

スクールカウンセラー等活用事業

- スクールカウンセラーを全小中学校（指定都市を除く）及び全県立学校に配置
- スクールカウンセラーや各種相談員への指導助言、緊急を要する事案等への対応を行うスクールカウンセラースーパーバイザーを各教育事務所に配置
- 県立学校に不登校の解消等のため、訪問相談員等を各学区に配置

いじめ・不登校の予防・解消

いじめ問題対策の推進

- 福岡県いじめ問題総合対策【改訂版】に基づく取組の実施
- いじめの早期発見・早期対応の手引【改訂版】の活用
- いじめ問題対策連絡協議会
- 福岡県県立学校いじめ防止対策推進委員会
- 学校生活・環境多面調査の活用
- 保護者用リーフレットの配布

いじめ・不登校対策相談事業

「子どもホットライン24」相談事業

- 土曜・日曜を含む24時間対応教育相談の実施
- 児童生徒や保護者からの電話相談・メール相談・面接相談への対応
- 虐待に関する他機関との連携

不登校対策の推進

- 不登校予防診断チェックリストの活用
- 保護者用及び教員用リーフレット「アクション3」の配布
- 不登校及び不登校兆候児童生徒へのマンツーマン方式による支援
- 不登校に関する学校支援プロジェクトの実施

SNSを活用した教育相談事業

- 児童生徒のコミュニケーション手段として利用が進むSNSにより、様々な悩みや不安等に対応する教育相談の実施

子ども、保護者の悩みの解消

教育相談体制の構築

関係機関・地域との連携

- 教育相談ネットワークの構築
- 学校警察連絡協議会
- ふくおか児童生徒健全育成サポート制度の適切な運用
- 学校の法的対応に関する弁護士との連携

豊かな人間性の育成

- 福岡県豊かな心育成推進会議
- 子どもの人間関係形成や社会性を育成する「ピア・サポート活動」の実践等（いじめ・不登校を生まない教育活動の推進）

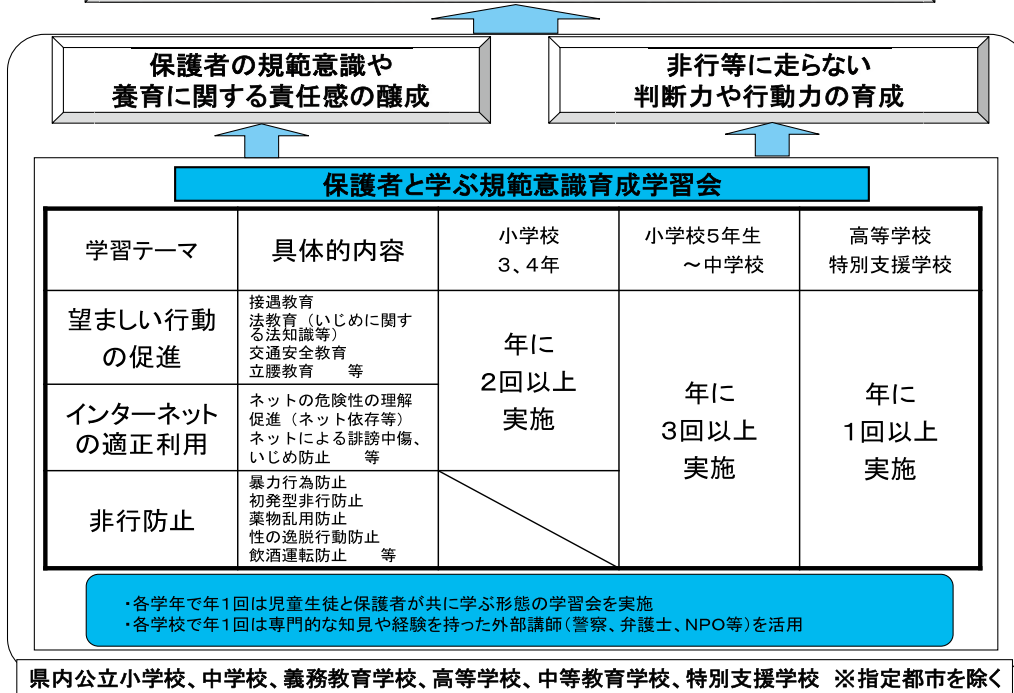
事業費：630,155千円

5 保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業

高校教育課・義務教育課・特別支援教育課

保護者が児童生徒とともに規範意識について学ぶことで、保護者の規範意識や養育に関する責任感を高め、さらに学校と家庭との連携を図り、児童生徒の規範意識を育成します。

非行防止の基盤となる児童生徒の規範意識の育成



事業費：5,874千円

6 子どもの読書習慣形成・定着支援事業（新規）

社会教育課

子どもの読書習慣の形成・定着を図るため、公共図書館が主体となる、子どもの発達段階に応じた読書活動の取組や保護者及び地域住民を対象とした読書啓発の取組を支援することにより、子どもを取り巻く読書環境の充実を図ります。

子どもの読書習慣の形成・定着

子どもを取り巻く読書環境の充実を図る取組

市町村教育委員会（公共図書館）

読書活動応援隊を設置し、活用しながら次の取組を行う。

- ◆子どもの発達段階に応じた読書活動の取組
 - 小学生対象事業の企画・運営
 - ・うちどく、読み聞かせ、読書リーダー養成、ブックトーク 等
 - 中学生による読書イベントの企画・運営を支援
 - ・ノ一部活デーを活用した読書イベントの実施 等
- ◆保護者及び地域住民を対象とした読書啓発の取組
 - ・読書活動啓発講演会、うちどく等の方法伝授 等

※読書活動応援隊
読書ボランティア、市町村職員、公共図書館職員、NPO、県社会教育主事等

県

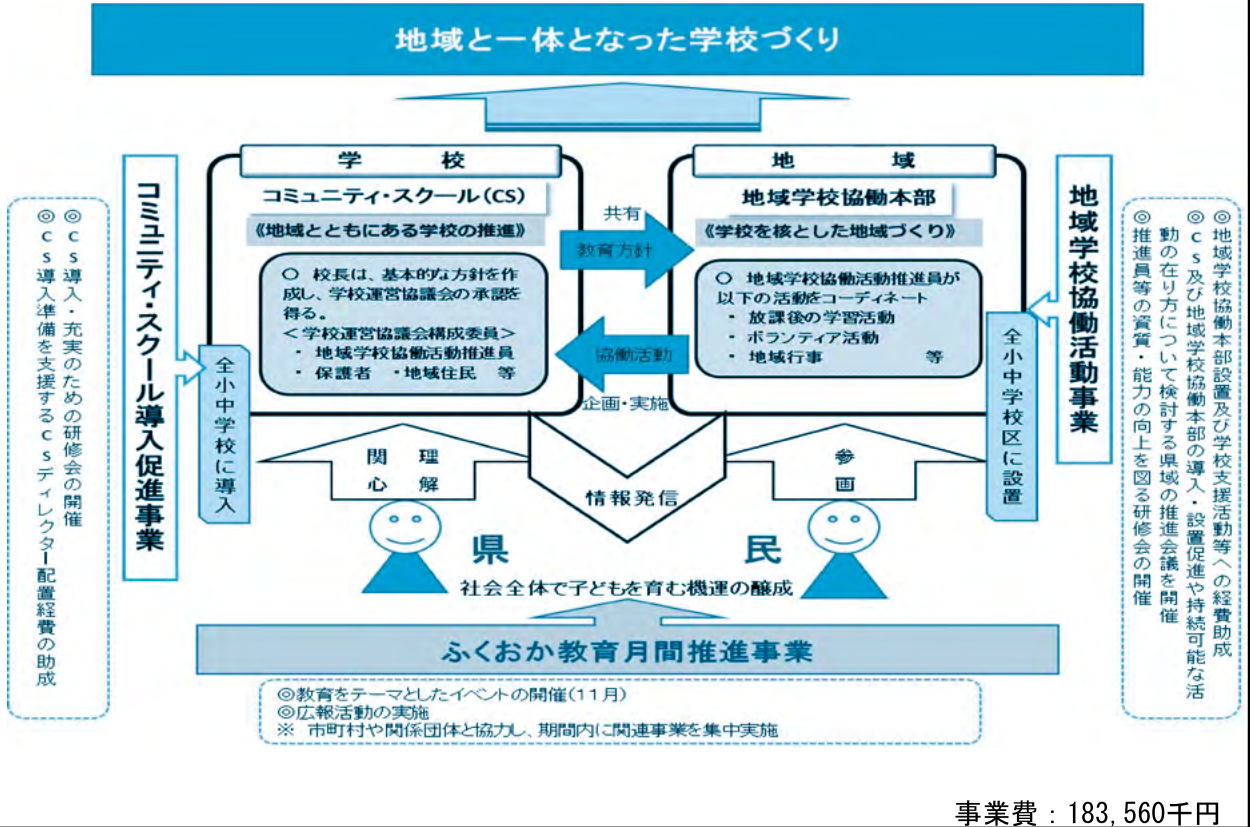
事業補助

読書活動応援隊を対象とした資質向上研修会の実施

【課題】 本を読まない小・中学生の割合が全国平均に比べて高い（特に、中学生は高い）

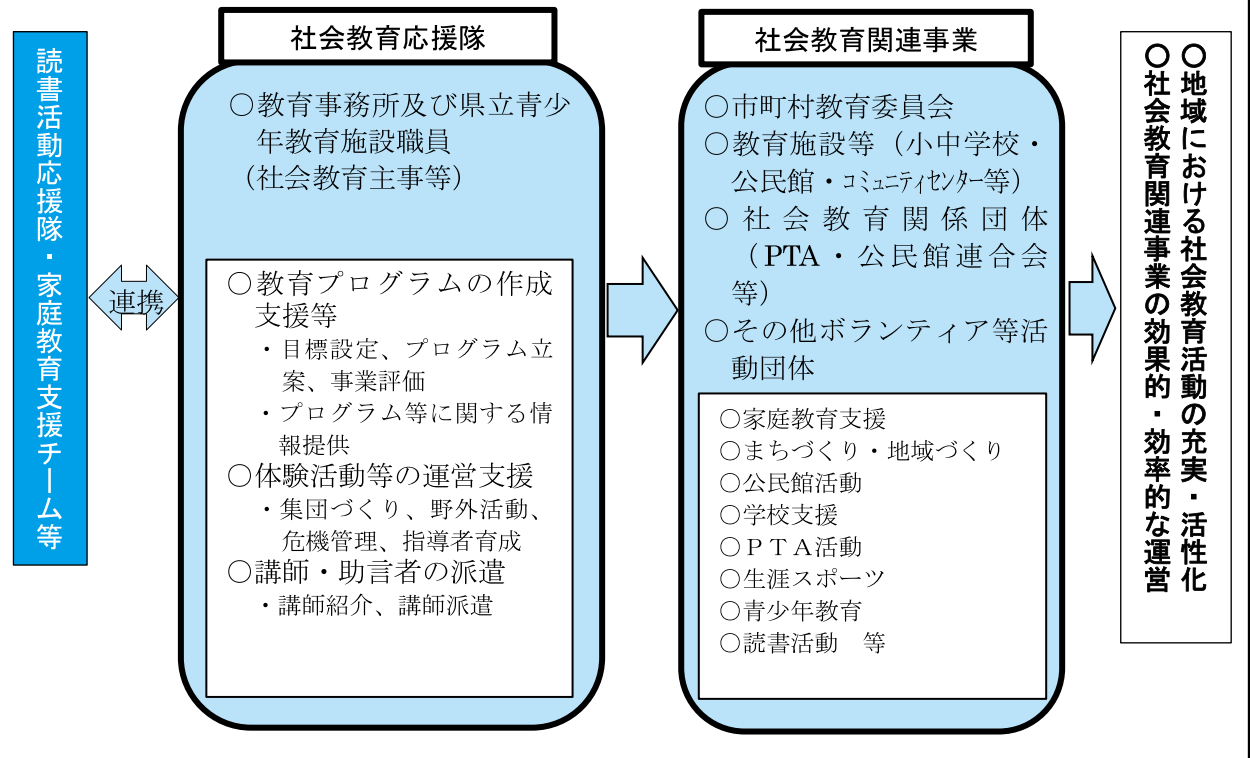
事業費：6,774千円

コミュニティ・スクール（CS）や地域学校協働本部の導入・実践に取り組む市町村を支援することで、学校、家庭、地域が連携・協働して子どもたちを育成する体制を整え、「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」を推進します。

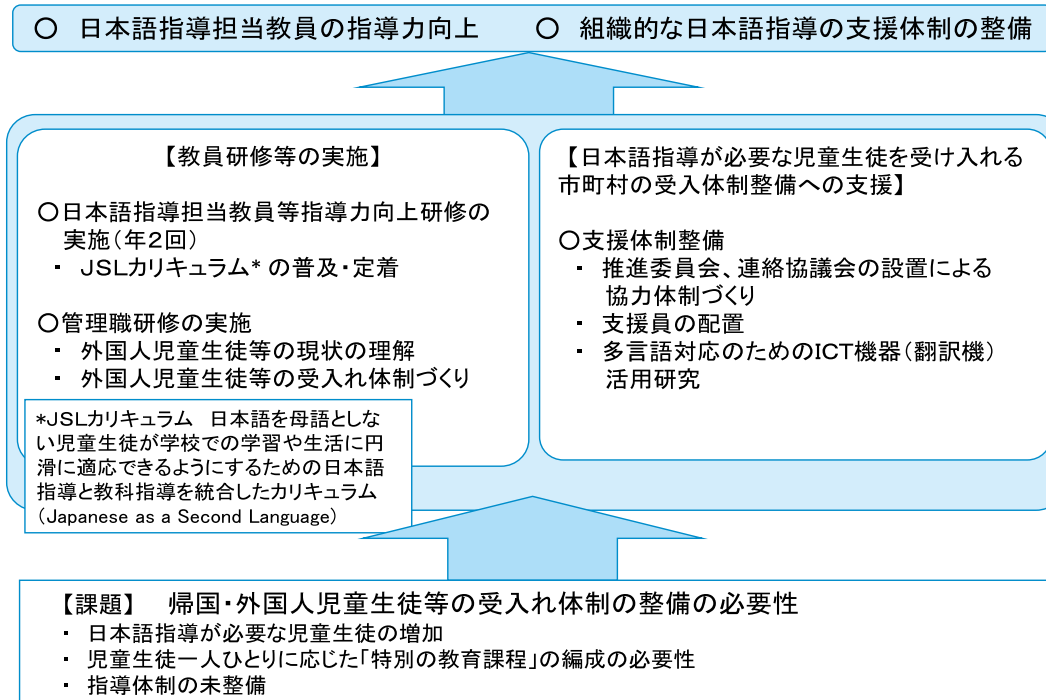


8 ふくおか社会教育応援隊事業

教育事務所及び社会教育総合センター等の県立青少年教育施設の職員（社会教育主事等）が、市町村教育委員会等が実施する社会教育関連事業に対し、効果的・効率的な運営を支援することにより、地域における社会教育活動の充実及び活性化を図ります。



日本語指導担当教員の研修の充実や受入市町村における支援体制の補助を通して、日本語指導担当教員の指導力の向上や市町村における支援体制整備の構築を推進します。



事業費：8,744千円

学校におけるICT環境の整備を進め、これまでの教育実践とICTを最適に組み合わせた「新しい教育」の実現に向けて、教員のICT活用指導力向上に関する研修、ICTを活用した先進的教育モデルの研究、プログラミング教育の充実に向けた取組や普及啓発を行い、児童生徒の情報活用能力を育成します。

ICTを活用した教育の充実



- 個別最適な学びの実現
- 協働的な学びの実現
- 緊急時における「学びの保障」
- 不登校児童生徒等への学習支援

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善



教員のICT活用指導力向上

- 学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じた教員研修の実施（中核教員、管理職研修等）

先進的教育モデルの研究

- スタディ・ログ（学習履歴）を活用した個別最適化の学習指導モデルや遠隔授業モデル等の研究やICTを活用した授業・学習等の在り方について研究

プログラミング教育の充実

- 協力校における学習指導実践等
- モデルカリキュラムや教材等の普及啓発

ICT環境の整備

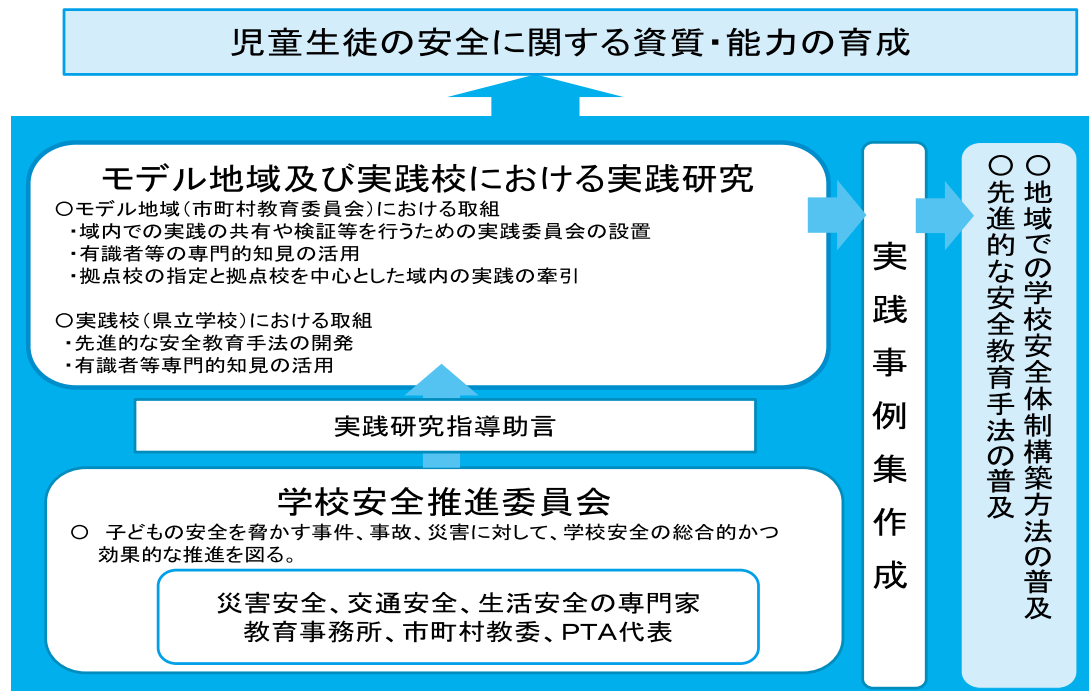
- 児童生徒用1人1台端末の配備（高校段階は個人所有機器の活用により1人1台を実現）
- 大型提示装置の配備
- 教員のICT活用をサポートするICT支援員の配置
- 児童生徒の障がいの特性に応じたICT機器（分身ロボット・デジタル教科書等）の配備
- 教育事務所、教育センター等に学校と同様のICT環境を整備（タブレット、無線LAN環境等）



福岡県学校教育ICT化推進計画（令和2年12月策定）

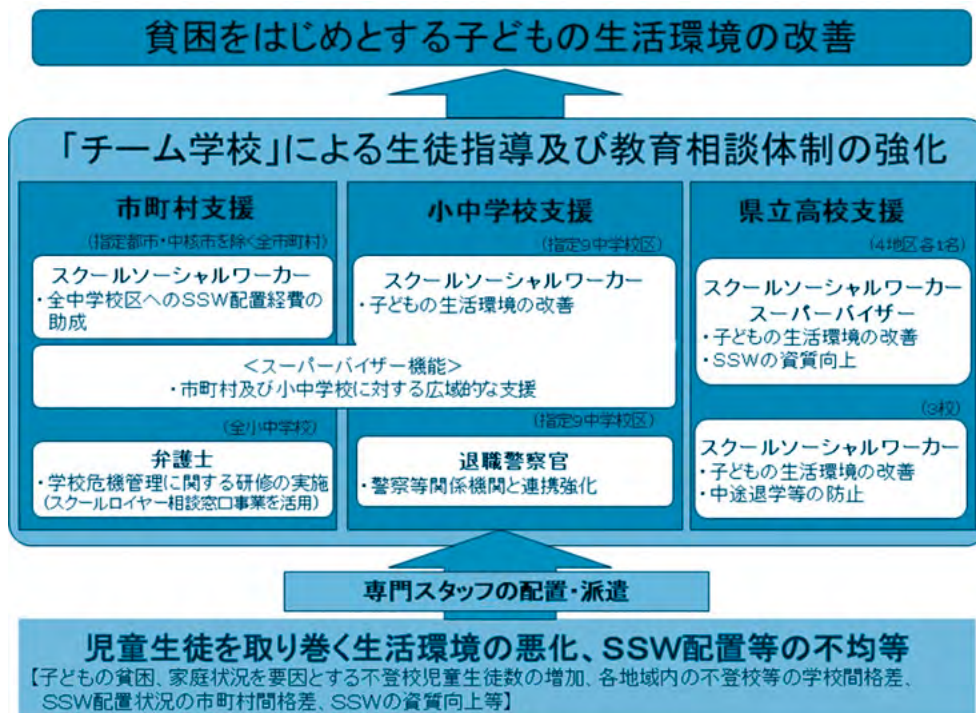
事業費：1,474,014千円

不審者からの被害、登下校中の交通事故、自然災害など子どもたちの安全を脅かす事件・事故・災害に対する学校安全の取組の充実を図るために、モデル地域及び実践校を指定し、実践の成果を県内に普及することで、学校安全体制の構築及び先進的な安全教育手法の普及を推進します。



事業費：4,347千円

学校をプラットフォームとした子どもの貧困対策を展開するため、全中学校区へのスクールソーシャルワーカー（SSW）配置など、専門スタッフの配置拡充により、学校の生徒指導及び教育相談体制を強化し、児童生徒を取り巻く生活環境の改善を図ります。



事業費：83,834千円

13 教職員の働き方改革推進事業（一部新規） 教職員課・施設課・体育スポーツ健康課他

教職員の長時間勤務を改善するため、ICカードによる勤務時間の適正な把握など、実効性のある対策を働き方改革の指針に盛り込み、順次実行することで、教職員が子どもと向き合う時間の確保や教育の質の向上を図ります。

教職員が子どもと向き合う時間の確保、教職員の健康の保持増進・ワークライフバランスの実現

教職員の働き方改革取組指針

勤務時間の適正な把握

- ・全県立学校において、ICカードによる勤務時間の適正な把握を実施（平成31年1月から）
- ・休暇等申請・決裁システムの活用

校務の情報化

- ・児童生徒の出欠や成績処理等の情報を一元管理できるシステムを本格稼働
- ・学校用グループウェア及びメール連絡網の活用

部活動指導員の配置

- ・単独で部活動の指導や引率を行うことができる部活動指導員を配置

地域部活動推進事業

- ・休日の部活動の段階的な地域以降に向けた地域部活動に関する実践研究

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部専門スタッフの活用

定時退校日の拡大

などの抜本的な取組により、教職員の超過勤務を縮減

抜本的な取組が必要

教職員の長時間勤務が深刻化

（教職員に求められる教育課題が複雑化・困難化するとともに、保護者・地域活動への対応等、その役割が多様化）

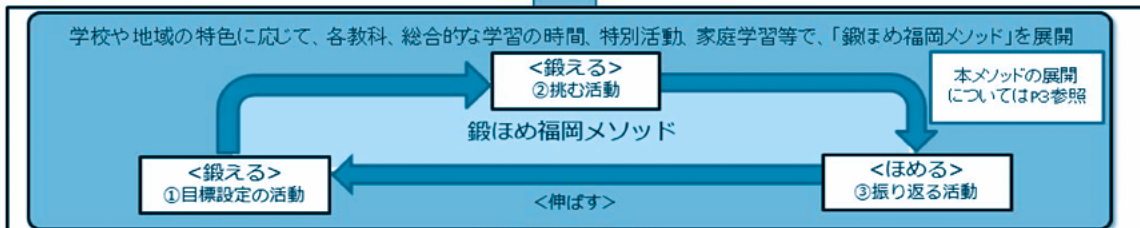
事業費：296,068千円

14 「鍛ほめ福岡メソッド」総合推進事業

義務教育課

福岡県独自の指導方法「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を通して、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等を育成するとともに、その成果を県内に広く普及します。

学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等の育成



【学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト】取組テーマ：「基礎学力の定着」

- 非認知的能力の高まりと学力の育成の相関を分析し、効果的な取組事例を収集・啓発
- ・18市町村（研究協力校：小学校12校 中学校6校）において取組テーマの研究・実践
- ・学識経験者等で構成する調査研究協議会が研究協力校に指導助言
- ・分析協議会において非認知的能力と学力の相関関係を科学的に分析

【算数・数学における学習到達診断シート「未来への一歩」を活用した学力向上の取組】

- 「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた「未来への一歩」の効果的な取組事例の収集・啓発
- ・「鍛ほめプロジェクト」研究協力校18校、「学力向上推進拠点校事業」拠点校6校、「学力向上推進強化市町村」推進校115校における研究実践
- ・大学と連携した「定着状況診断テスト」、「児童生徒質問紙調査」の分析・検証

事業費：7,949千円

地域の企業・経済団体等と連携して、子どもの発達段階に応じた勤労観・職業観を育み、自立した生き方を考えさせるためのキャリア教育、各地域のニーズに応じた職業教育を推進します。

社会で自立していく力

高等学校の取組

- 社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成するため、地域と連携した取組を推進（未来を切り拓く人材育成事業）
- 産学官連携を行い、高度で実践的なものづくり技能をもつ人材を育成（県立工業高校産業人材育成事業）
- 求人開拓や面談の充実による支援強化や関係機関との連携（新規高卒者の就職支援の充実）
- 進路支援コーディネーター及び就職指導員を配置し、生徒の進路実現に向けた支援を強化（高校生みらい支援事業）
- 地域の産学官連携の協議会を設置し、地域や地域産業を担う人材を育成（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）

特別支援学校の取組

- 就職指導員を配置し、生徒の進路実現に向けた支援を強化（高校生みらい支援事業）
- 社会的・職業的自立に向け、関係機関との連携を図り、実習先・進路先の開拓を推進（特別支援学校等就職支援事業）
- 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進する取組を実施（未来を切り拓く人材育成事業）
- 企業団体と連携して開発した認定資格を授与する技能検定を実施（特別支援学校技能検定事業）

○ 地域の企業・経済団体等と連携したインターンシップ等の推進（県立高校キャリア教育支援事業）

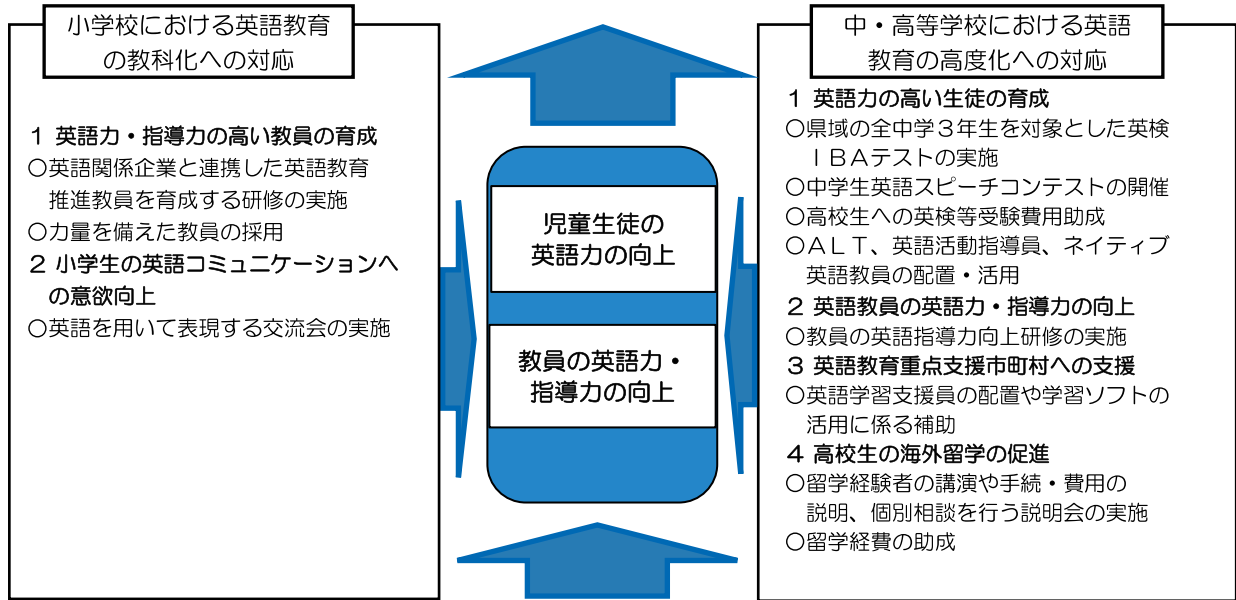
小中学校の取組

- 体験活動の充実（地域の企業と連携した職場体験学習等の推進）
- 地域人材の活用（実際に職業に従事する地域人材をゲストティーチャーとして活用）
- 一人一人のキャリア形成と自己実現を図る教育の推進（活動の過程を記述し振り返ることができるキャリアパスポートの作成と活用）

事業費：327,152千円

学習指導要領の全面実施を踏まえ、小学校教員及び中・高等学校英語教員の英語力・指導力を高めるとともに、小・中・高で一貫性のある英語教育を実施し、英語力や英語で積極的にコミュニケーションを行う態度を身に付けた人材を育成します。

英語で積極的にコミュニケーションする態度を身に付け、グローバル社会で活躍する人材を育成



【課題】 ■児童生徒の英語力の向上 ■小・中・高校教員の英語力・指導力の向上
 ■各市町村における中学校英語教育支援体制整備

事業費：490,677千円

日本遺産「西の都」が筑紫地区を中心とした古代日本の国際都市であったことを発信し、広く県民に知ってもらおうとともに、新たな発見や郷土への興味と関心を抱けるような機会を提供します。

日本遺産「西の都」を知ってもらい、新たな発見や郷土への興味と関心を抱けるような機会を提供

日本遺産「西の都」の魅力発信

- ・構成文化財等を紹介する多言語対応ガイドブック及びパンフレットの作成
- ・構成文化財解説案内板の設置（追加認定11か所）

<日本遺産「西の都」の認定>

- ・平成27年 太宰府市単独での認定
- ・令和2年6月 対象範囲を筑紫地区を中心とした5市2町に広げる追加認定
 （筑紫野市、大野城市、春日市、太宰府市、那珂川市、宇美町、佐賀県基山町）

<おもな構成文化財>

大宰府跡(国特別史跡)、大野城跡(国特別史跡)、水城跡(国特別史跡)、観世音寺・戒壇院(国史跡/国重文)、筑前国分寺跡(国史跡)、
 太宰府天満宮(国宝(書籍)/国重文)、太宰府天満宮神幸行事(県無形民俗)、
 キイジョウ アシキサンジョウ スイタノユ
 (二日市温泉)(未指定)、スギツカハイジ センイチダ サクタノウナデ
 杉塚廃寺(市史跡)、善一田古墳群(市史跡)、裂田溝(未指定)



事業費：15,361千円

18 競技者育成・競技団体等活性化事業

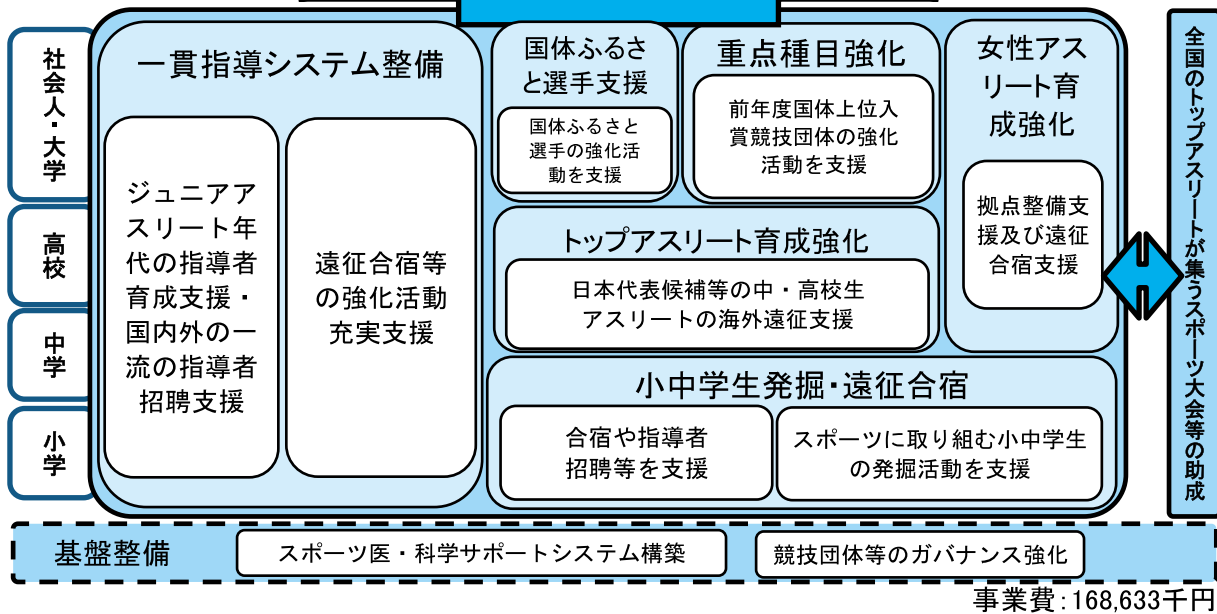
体育スポーツ健康課

国際大会等世界の舞台で活躍するなど、スポーツの力で県民に夢や感動を与えることのできるトップアスリートを輩出するため、スポーツに取り組む小中学生の発掘から始まる各年代の「育成システム」を構築します。

目指す姿：スポーツの力で県民に夢や感動を与える！

国体常時8位以内入賞・国際大会で本県ゆかりの選手が優秀な成績

5年後の姿：全ての競技団体が発掘・育成システムを構築、強化拠点の整備



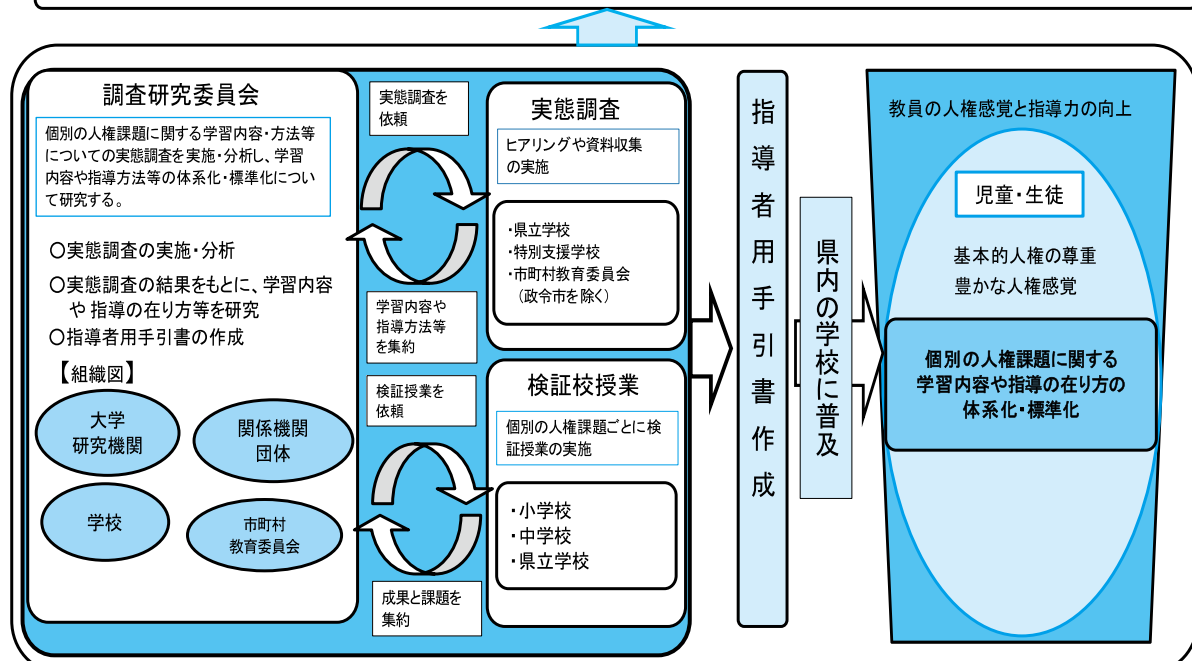
事業費：168,633千円

19 個別の人権課題に関する指導方法等調査研究事業

人権・同和教育課

本県の人権・同和教育における個別の人権課題に関する学習内容や指導方法等の体系化・標準化及び教員の指導力の向上を図るため、実態調査や検証授業等を通して指導方法や内容の在り方等について調査・研究し、もって児童・生徒の人権尊重精神の育成を図ります。

児童・生徒の人権尊重精神の育成



事業費：1,250千円

20 新型コロナウイルス感染症対策関連事業（一部新規）

新型コロナウイルス感染症対策への対応を図るとともに、学校教育活動や社会教育施設等の充実を図ります。

学校教育活動の充実

【学校における感染症対策の充実】

県立学校感染防止・教育活動継続支援

- ・県立学校における感染拡大防止のための衛生用品等の購入

特別支援学校通学バスの増便

- ・通学バス車内における感染リスク低減を図るため通学バスを増便



【ICTを活用した教育の推進】

ICT環境の整備

- ・児童生徒用1人1台端末・大型提示装置の配備
- ・教員のICT活用をサポートするICT支援員の配置
- ・児童生徒の障がいの特性に応じたICT機器（分身ロボット・デジタル教科書等）の配備

教員のICT活用指導力向上

- ・学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じた教員研修の実施

先進的教育モデルの研究

- ・スタディ・ログ（学習履歴）を活用した個別最適化の学習指導モデル等の研究

緊急時の「学びの保障」
個別最適な学びの実現

【外部人材を活用した教育活動の充実】

学習指導員等配置

- ・習熟度に応じた学習の充実等、児童生徒をサポートする学習指導員の配置

スクール・サポート・スタッフの配置

- ・事務的業務や消毒作業等、教員をサポートするスクール・サポートスタッフの配置

就職指導員の配置

- ・新規の求人開拓や生徒の就職決定までの支援を行う就職指導員の配置

働き方改革の推進

社会教育施設等の充実

社会教育施設等感染防止対策

- ・社会教育施設等における感染拡大防止のための衛生用品等の購入

図書館サービスの充実

- ・県立図書館における電子書籍の整備

美術館サービスの充実

- ・県立美術館の所蔵作品を鑑賞できる「バーチャル美術館」の公開

事業費：2,431,082千円

「令和3年度福岡県の教育施策」において、重点的に取り組む事業に関する予算概要

(千円)

柱	事業名	予算額	説明	
I「学力、体力、豊かな心」を育成する	ふくおか学力アップ推進事業	262,543	○福岡県学力調査の実施に要する経費(対象:小学校5年生、中学校1・2年生) ○学力強化が特に必要な市町村が実施する学力向上プランの推進に対する助成等 ○学力強化が特に必要な市町村への非常勤講師の派遣に要する経費 ○活用力育成教材集の作成及び診断テストの実施等に要する経費	48,798 6,568 200,284 6,893
	学力向上推進拠点校指定事業	12,292	○推進拠点校における学力向上のための授業・組織運営・人材育成の一体的改善に要する経費	
	「主体的・対話的で深い学び」推進事業	2,169	○小・中学校の教員を対象とした授業実践研修に要する経費 ○県立高校におけるディベート等を導入した主体的・協働的な授業法の研究開発に要する経費	520 1,649
	地域学校協働活動事業	167,934	○市町村が行う放課後活動、学校支援に対する助成等	
	コミュニティ・スクール導入促進事業	4,676	○市町村のコミュニティ・スクール導入に向けた研修会に要する経費 ○市町村がコミュニティ・スクール導入を準備するためのディレクター配置に対する助成	976 3,700
	福岡県体力向上総合推進事業	126,070	○市町村が行う部活動指導員の配置に対する助成 ○県立学校における部活動指導員の配置等に要する経費 【新】市町村が行う部活動の段階的な地域移行に向けた実践研究に対する助成(運動部活動) ○「スポコン広場」地区大会等の開催に要する経費 ○体力アップシートの配布 ○県立学校へのオリンピック・パラリンピック派遣に要する経費 ○オリンピック・パラリンピック教育の効果的手法に関する調査研究に要する経費 ○タグラグビーの普及に要する経費	27,770 85,097 4,642 958 500 1,100 5,949 54
	【新】ワンヘルス教育推進事業	19,718	○ワンヘルスに関する教育及び理念の普及・啓発に要する経費	
	児童生徒を取り巻く生活環境改善事業	83,834	○市町村の全中学校区へのスクールソーシャルワーカー配置に対する助成 ○小・中・高等学校における不登校等生徒指導上の諸課題に対応する専門スタッフの配置に要する経費	42,678 41,156
	スクールカウンセラー等活用事業	472,998	○全小学校(指定都市を除く)へのスクールカウンセラー配置に要する経費 ○全中学校(指定都市を除く)へのスクールカウンセラー配置に要する経費 ○全県立学校へのスクールカウンセラー配置に要する経費 ○県立高校の各学区への訪問相談員等配置に要する経費	107,190 255,513 89,221 21,074
	「子どもホットライン24」相談事業	47,570	○24時間対応教育相談の実施等に要する経費 ○教育相談体制の構築に要する経費	47,017 553
	【新】SNSを活用した教育相談事業	25,753	○SNSを活用した相談体制の構築に要する経費	
	保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業	5,874	○児童生徒及び保護者が参加する規範意識育成学習会への講師派遣に要する経費	
	【新】子どもの読書習慣形成・定着支援事業	6,774	○市町村が行う子どもの読書習慣の形成・定着に向けた取組に対する助成	
	地域と一体となった学校づくり事業	183,560	○市町村のコミュニティ・スクール導入に向けた研修会に要する経費※再掲 ○市町村がコミュニティ・スクール導入を準備するためのディレクター配置に対する助成※再掲 ○市町村が行う放課後活動、学校支援に対する助成等※再掲 ○ふくおか教育月間(11月)の推進に要する経費	976 3,700 167,934 10,950
	ふくおか社会教育応援隊事業	—	○市町村教育委員会等が実施する社会教育関連事業に対し、職員(社会教育主事等)が効果的・効率的運営を支援	
	帰国・外国人児童生徒等への日本語指導体制整備事業	8,744	○日本語指導を行う教員の指導力向上に要する経費 ○モデル市町村が行う日本語指導が必要な児童生徒への支援の実践研究に対する助成	620 8,124
	ICTを活用した教育推進事業	1,474,014	○県立学校におけるネットワークセキュリティ機能の拡充や大型提示装置の整備等に要する経費 【新】県立学校におけるICT支援員の配置に要する経費 【新】特別支援学校の訪問教育対象生の学習・交流機会拡充のための分身ロボット配備に要する経費 【新】特別支援学校におけるICT活用教育推進のためのデジタル教科書及び電子黒板の整備に要する経費 【新】教育事務所等におけるICT環境整備に要する経費 【新】教育センター、体育研究所においてICT活用能力向上に係る教員研修を実施するためのICT環境整備に要する経費 【新】公立小中学校の教員に対しICT活用能力向上のための研修実施及び授業モデル開発に要する経費 ○プログラミング教育に対応するための教員指導力向上に要する経費	1,212,762 167,464 3,960 13,518 13,929 12,215 17,604 32,562
	学校安全総合支援事業	4,347	○地域全体での学校安全推進体制の構築に要する経費	
	教職員の働き方改革推進事業	296,068	○県立学校におけるICカードによる勤務時間管理システムの運用に要する経費 ○県立学校における情報共有システム運用に要する経費 ○県立学校における生徒の基本情報等管理システム運用に要する経費 ○市町村が行う部活動指導員の配置に対する助成※再掲 ○県立学校における部活動指導員の配置に要する経費※再掲 【新】市町村が行う部活動の段階的な地域移行に向けた実践研究に対する助成※再掲	11,332 3,663 162,864 27,770 85,097 5,342

柱	事業名	予算額	説明	
II「社会にはばたく力」を育成する	「鍛ほめ福岡ノット」総合推進事業	7,949	○小・中学校における学力向上のための「鍛ほめ福岡ノット」の研究に要する経費	
	未来を切り拓く人材育成事業	30,775	○生徒が主体となって計画立案した体験活動等の実施に要する経費 ・高等学校 26,323 ・特別支援学校 4,452	
	県立工業高校産業人材育成事業	51,161	○産学官連携を行い、高度で実践的なものづくり技能を持つ人材育成に要する経費	
	高校生みらい支援事業	234,684	○生活困窮世帯等の生徒に対する進学・就職支援を行うコーディネーターの配置に要する経費 30,251 ○県立学校における就職指導員の配置に要する経費 204,433	
	地域との協働による高等学校教育改革推進事業	4,387	○地域社会と連携・協働して人材育成を図るための特色ある教育課程の研究開発に要する経費	
	高校生キャリア教育推進事業	1,595	○地域企業と連携したインターンシップ(就業体験)実施等に要する経費	
	特別支援学校技能検定事業	2,529	○特別支援学校における技能検定の実施等に要する経費	
	特別支援学校等就職支援事業	2,021	○企業等の関係機関から就職に係る支援や助言を受けるためのネットワーク協議会等に要する経費	
III「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する	グローバル化に対応した英語教育推進事業	490,677	○小学校における英語教育の早期化・教科化への対応に要する経費	
			・教員の英語力・指導力向上研修に要する経費	6,138
			・児童の英語を用いたコミュニケーションへの意欲向上に向けた交流会	6,491
			○中学校における英語教育の高度化への対応に要する経費	
			・英検IBAテスト(対象:中学校3年生)、スピーチコンテスト	12,892
			・重点市町村が行う英語学習支援員配置等に要する助成	16,850
			○高等学校における英語教育の高度化への対応に要する経費	
			・4技能型英語力の総合的な育成(英検等受検費用助成)	2,710
			・ネイティブ英語教員による英語授業等の実施に要する経費	10,469
			・英語指導助手(ALT)の配置に要する経費	402,658
・英語活動指導員による英語を使った英語以外の授業等の実施に要する経費	27,924			
・高校生の留学経費に対する助成	4,404			
・教員の英語力・指導力向上研修に要する経費	141			
IV生涯学習社会をつくる	ふくおか社会教育応援隊事業 ※再掲	—	○市町村教育委員会等が実施する社会教育関連事業に対し、職員(社会教育主事等)が効果的・効率的運営を支援	
V 県民の文化活動を盛んにする	【新】日本遺産「古代日本の『西の都』」魅力発信事業	15,361	○「西の都」の全体ストーリー、構成文化財を紹介するガイドブック、パンフレットの作成等に要する経費	
VI 県民のスポーツ活動を盛んにする	競技者育成・競技団体等活性化事業	168,633	○将来有望な小・中学生の選手発掘・育成に対する助成	36,181
			○国体成年種別の「ふるさと選手」の県内強化活動に対する助成	11,228
			○本県重点種目に指定する競技団体の遠征・合宿に対する助成	16,500
			○オリンピックをはじめとした大規模大会に向けた女性アスルトの育成及び指導者育成等に要する経費	2,349
			○オリンピック等国際大会に向けたアスルトの育成・強化に対する助成	2,700
			○オリンピックをはじめとした大規模大会に向けたアスルトの育成等に要する経費	79,629
○各種スポーツ大会開催に対する助成	8,450			
○競技団体の組織強化に対する助成	11,596			
VII 人権が尊重される心豊かな社会をつくる	個別の人権課題に関する指導方法等調査研究事業	1,250	○個別の人権課題に関する指導方法等の研究に要する経費	
—	新型コロナウイルス感染症対策関連事業	2,431,082	○県立学校における教育活動の継続のために必要な感染症対策等に要する経費	252,400
			○特別支援学校における感染リスク低減を図るための通学バスの増便に要する経費	337,324
			○ICTを活用した教育推進事業の実施に要する経費※再掲	1,474,014
			○市町村が行う学習指導員の配置に対する助成	39,240
			○市町村が行うスクール・サポート・スタッフの配置に対する助成	21,560
			○県立学校における就職指導員の配置に要する経費※再掲	204,433
			○社会教育施設等における感染拡大防止のための衛生用品等の購入に要する経費	6,351
			○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、電子書籍の購入による図書館サービスの充実に要する経費	95,760
○県立美術館における所蔵作品を鑑賞できる「バーチャル美術館」に要する経費	—			



令和3年度福岡県教育施策実施計画

令和3年3月発行

問合せ先：福岡県教育庁教育総務部総務企画課

〒812-8575 福岡市博多区東公園7番7号

電話 092-643-3882（教育政策推進室）

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyouikusesaku.html>



福岡県行政資料	
分類記号 IA	所属コード 2120212
登録年度 2	登録番号 0005

"^{きた}鍛えて、^{きた}ほめて、伸ばす! 子どもの可能性"

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中!～



「鍛ほめ福岡メソッド」シンボルマーク

左右のシルエットは「鍛える人」と「ほめる人」を、中央のシルエットは「周囲に支えられて伸びていく子ども」をイメージしています。そして、「燃え上がる炎のように情熱をもって、勢いよく大きくなる様子」を全体で表しています。

11月は「ふくおか教育月間」です。

イメージキャラクター「ミライル」

これから社会にはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。左右にある翼は、何でも持てるように変化します。

